



ESD ユース・ウィーク

2017年9月23日～24日

第4回日本ESDユース・コンファレンス

## 参加者活動紹介



- 1... 新宮 済 ・奈良市立平城小学校 / 教諭  
・近畿ESDコンソーシアム(ESDマスター認証プログラム・連続セミナー・連続公開講座受講生)
- 2... 有馬 弥優 ・北九州市立大学地域創生学群地域創生学類 ESDプロモート実習 / メンバー  
・北九州ESD協議会/サブコーディネーター
- 3... 伊藤 菜々美 ・認定NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン / ファシリテーター・モチベーションショナルスピーカー  
・エシカルYouTuber スタジオなみん
- 4... 今中 麻美 名古屋ユネスコ協会青年部若鯨組
- 5... 大室 ひな 呉工業高等専門学校環境都市工学科
- 6... 小野木 理恵 ・慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 医療マネジメント専修 修士  
・コミュニティナース育成プロジェクトメンバー
- 7... 加賀美 幹 ・Junior Youth Spiritual Empowerment Program のアニメーター(ファシリテーター)  
・岡山大学 マッチングプログラムコース
- 8... 梶本 夏未 岡山大学 教育学部 特別支援教育コース
- 9... 河口 枝里子 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 人物交流部
- 10... 木下 大輔 ・有限会社 グローバル教育研究所 / 会社員  
・一般社団法人 さよなら不登校 / 職員
- 11... 久保 健太郎 ・GiFT(一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト) / プログラムコーディネーター  
・元Ba Provincial Free Bird Institute(フィジーの公立高校) / 現地カウンセラー
- 12... 倉田 百恵 群馬県立女子大学 国際コミュニケーション学部
- 13... 黒住 知代 ・岡山大学環境理工学部環境管理工学科  
・岡山大学環境部ECOLO 部長
- 14... 河野 晋也 ・奈良教育大学附属小学校 / 教諭  
・近畿ESDコンソーシアム 運営委員
- 15... 五島 希里 港屋株式会社 代表取締役・プロフェッショナルコーチ
- 16... 清水 葉月 ・東海大学チャレンジセンター ユニークプロジェクト Connect代表  
・東海大学 文学部 心理・社会学科
- 17... 新莊 直明 ・青年環境NGO Climate Youth Japan 副代表  
・東京大学大学院理学系研究科修士課程
- 18... 杉山 友規 名古屋国際中学校・高等学校 / 教諭
- 19... 鈴木 洋一 ・Wake Up Japan 代表理事  
・(特活)オックスファム・ジャパン ユースプログラム・コーディネーター
- 20... 関本 彩子 ・神戸大学発達科学部人間表現学科  
・兵庫県青年国際交流機構幹事
- 21... 高橋 元 岡山県立矢掛高等学校 / 教諭
- 22... 高橋 美佐紀 ・公立鳥取環境大学環境学部環境学科  
・青年環境NGO Climate Youth Japan(COP23派遣事業統括)
- 23... 高原 実那子 酪農学園大学農食環境学群環境共生学類
- 24... 武内 友里恵 ・渋谷ユネスコ協会連盟会員  
・上智大学総合グローバル学部総合グローバル学科
- 25... 田中 嵩久 一般社団法人アンビシャス・ネットワーク / 代表理事
- 26... 谷田 彩佳 ・東海大学教養学部国際学科  
・東海大学チャレンジセンタープロジェクトBeijo Me Liga

- 27... 谷脇 理史      ・岡山大学大学院 社会文化科学研究科 博士前期課程  
・若者の参画する街岡山(WASAO) / 学生リーダー
- 28... 照屋 愛香      沖縄県立沖縄水産高等学校 / 教諭
- 29... 長川 美里      ・One Young World Japan(南アフリカ大会アンバサダー)  
・株式会社グロービス(コンサルタント)
- 30... 名倉 俊雄      ・慶応義塾大学経済学部 Professional Career Program  
・NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会 ユースワーカー
- 31... 二宮 由布子      特定非営利活動法人こどもNPO / 名古屋市緑児童館職員プレイワーカー
- 32... 橋爪 伸幸      関西創価高等学校 / 教諭 / SGH委員
- 33... 八長 康晴      東京都公立小学校 / 教諭
- 34... 福田 麻衣      認定NPO法人箕面こどもの森学園 / 常勤スタッフ
- 35... 藤 まりこ      徳島県立富岡東高等学校 / 教諭
- 36... 藤田 真理      ・MA in Development Education and Global Learning, Institute of Education, University College London  
・アイディール・リーダーズ株式会社
- 37... 船戸 明美      創価大学教育学部教育学科
- 38... 町田 恵理子      大田区立大森第六中学校 / 教諭
- 39... 溝 奈々実      ・岡山大学  
・NPO法人だっぴ / 留学生支援ボランティア団体WAWA
- 40... 明樂 加奈      岡山市立御津公民館 / 職員
- 41... 村岡 真梨      ・株式会社メディア総合研究所 翻訳事業部 教育グループ  
・NPO法人コモンビート
- 42... 森下 貴史      桃山学院大学 教務部教育支援課 / 職員
- 43... 安田 侑加      聖心女子大学文学部英語英文学科
- 44... 矢部 達大      ・日本ボーイスカウト大和郡山第1団ローバースカウト隊  
・京都産業大学現代社会学部現代社会学科
- 45... 山本 一輝      ・Ideapartners 代表 / プランニングディレクター  
・特定非営利活動法人みらいずwork / 学びクリエイター
- 46... 山本 純平      神奈川県立有馬高等学校 / 教諭
- 47... 山本 佳史      ・一般社団法人ソーシャルギルド / 代表理事  
・一般社団法人こどものホスピスプロジェクト/広報・ファンドレイジング・あそび創造広場担当
- 48... 渡辺 人生      ・東京都市大学環境学部環境マネジメント学科  
・昔の遊びを伝える会
- 49... 渡部 南      ・渥美どろんこ村  
・田原市立野田小学校 / 教諭

## プログラムデザインチーム

### 【過去ESD日本ユース・コンファレンス参加者】

青山 真弓  
飯田 貴也  
大野 さゆり  
篠田 真穂  
チーム カイデニス  
中尾 有里

### 【ファシリテーター】

嘉村 賢州

### 【事務局(五井平和財団)】

有馬 徹  
鈴木 啓介  
中並 千景  
中山 樹  
宮崎 雅美

ふりがな 氏名	あらみや わたる  <b>新宮 済</b>	都道府県	奈良県	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良市立平城小学校 / 教諭</li> <li>・近畿ESDコンソーシアム（ESDマスター認証プログラム・連続セミナー・連続公開講座受講生）</li> </ul>			
私のESD活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を舞台に学び、他地域へとつなげるESDの発信</li> <li>・持続可能な山・川をつくる授業づくりの発信</li> </ul>			
<h3>活動の概要</h3>				
<p><u>1、陸前高田市文化遺産調査成果の教材化</u></p> <p>「文化遺産がほとんど海へ流された町に希望を」という依頼を受けて始まった奈良教育大学の陸前高田市浄膳寺の文化財調査に参加しました。発見された墨書から「陸前高田市と小笠原諸島との結びつき」が明らかになりました。この成果を教材化し教育委員会や地元の方に送りました。子どもが地域の歴史を誇りに思い、地域を大切にする心を育て、持続可能で住みたい地域社会づくりの担い手になりたいという気持ちを育てることに寄与できるように近畿ESDコンソーシアム実践報告会で発表しました。</p> <p><u>2、持続可能な海・山・川をつくる授業づくり</u></p> <p>近畿ESDコンソーシアムと地域の博物館「森と水の源流館」と平城小学校で3年連続して共同授業研究をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目は、森と水の源流館が販売する間伐材の割り箸を教材化し、林業を守り源流に美しい水を流し続けることが、林業、農業、県外の漁業の振興につながることを気付かせる学びを作りました。 (近畿ESD実践報告会、きんき環境館ESDフォーラム発表)</li> <li>・2年目は、地域の課題である土砂災害を防ぐために林野庁が進める「木づかい運動」を教材化して奈良県の事例を学んだ後に、ESD日本ユース達から地元の「木づかい運動」を紹介してもらい、それに感化された子どもたちが「平城っ子の木づかい運動」を立ち上げる行動化の学びを作りました。(きんき環境館ESDフォーラム発表予定)</li> </ul>				
<p>○研究報告「陸前高田市文化遺産調査におけるESDの教材開発」 <a href="http://ci.nii.ac.jp/naid/120005230004/en/">http://ci.nii.ac.jp/naid/120005230004/en/</a></p> <p>○近畿ESDコンソーシアムESD理論研究会 <a href="https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/esd/?page_id=30">https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/esd/?page_id=30</a></p>				
<h3>今後の活動や協働への展望</h3>				
<p>地域の博物館「万葉文化館」や「森と水の源流館」と連携したESD教材開発を行い、地域の歴史・環境から地域を大切にする心を養い、持続可能で住みたい地域社会づくりの担い手になりたいという気持ちを育てたいと考えています。そのためには「人・もの・こと」に出会う深い学びが大切です。私は以前埋蔵文化財の仕事をしていたので、博物館の方々の文化財を守り後世へ伝えようとする考え方とESDの考え方は共通することに気がきました。また、学校も博物館も協働したいと思っていながらも、これまでは様々な制約がありました。そこで両者の立場を経験した自分の強みを活かして、博物館と学校をつなげ協働授業研究し実践することに挑戦します。その実践を大学や研究機関などで発表することで、博物館との協働に興味を持った教師と博物館をつなぐ役割を担いたいと考えています。地域の博物館と連携するESDを進めていくためには、奈良の事例だけではなく全国の事例や実践者の見方・考え方を集めることが大切です。</p> <p>ESD日本ユースとしての私は、教員と専門分野を持つユースが協働したESD授業開発をコーディネートする「ユース版学びのプラットフォーム」となりたいです。近畿ESDコンソーシアムの中澤静男教授は、専門機関と学校をつなぐ役割を果たすと共にESDの理論を深めています。私はその下で学びながら日本ESDユースとして協働し実践活動を深めていきたいと思えます。</p>				

ふりがな 氏名	ありま みゆ	都道府県	福岡県	
	<b>有馬 弥優</b>			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市立大学地域創生学群地域創生学類 ESD プロモート実習/メンバー</li> <li>・北九州 ESD 協議会/サブコーディネーター</li> </ul>			
私のESD活動	KAPIC への参加や保育園・幼稚園訪問から教育の重要性を学び、現在はESDの普及活動に取り組んでいる			

## 活動の概要

高校時代ではユネスコ部に所属し、部長として活動していました。部活動で KAPIC 研修(鹿児島県アジア太平洋農村研修センター)に参加し、様々なワークショップを通して、持続可能な開発のために教育が最も有効かつ効果的な手段であることを学びました。ボランティアとして行った保育園・幼稚園訪問では、子どもの素直さと周囲の環境が子どもに与える影響力の強さに気づき、幼いうちからの教育の大切さを感じました。大学の実習では、今年の6月に北九州市環境ミュージアムで行われた「未来ホタルデー」に出店し、牛乳パックを使ってエコロジーな和紙づくりを行いました。小さい子どもたちとその保護者の方々を中心とし、合計で139枚の和紙を作成しました。参加してくれた子どもたちや保護者の方々にとって、牛乳パックという普段捨ててしまうものを、新しい価値あるものに変えるという体験は、使い捨て社会を見直すきっかけになったと思います。同じく6月に北九州 ESD 協議会で行われた総会の交流会では、持続可能な社会を実現するために北九州でできることを考えるワークショップの企画・運営を実施し、私は司会として全体の進行を務めました。参加者の方々からはワークショップの企画・運営に対するお褒めの言葉をいただくことができ、参加者同士の会話の中から改めて、ESD の重要性を感じる事ができたという感想をいただきました。

○「ESD プロモート実習 Twitter」 <https://twitter.com/kitakyuESD>

○「ESD プロモート実習 Facebook」 <https://m.facebook.com/promoteesd/>

## 今後の活動や協働への展望

ESD・SDGsという表現はわかりにくく、日本語も理解しにくいと感じているので第一に、ESD や SDGsについて義務教育の課程で重点的に学ぶような仕組みをつくりたいと思いました。これは高校の部活動での KAPIC 研修への参加と保育園・幼稚園訪問のボランティアから、周囲を取り囲む環境が子どもたちに強く影響していると感じたことがきっかけです。幼い頃からESD・SDGsという概念に触れておくことは、SDGsへの理解を深め、行動に移すことにつながると思います。そこで持続可能な開発に関する価値観を育むことを目的とした、幼児向けの絵本の制作を行いたいです。地域に関連づけた身近な内容を題材とすることで、持続可能な開発に関する価値観の創造と統一が出来るのではないかと考えています。第二に、人との関わりの中で ESD・SDGsについて知ることが出来たり、意図しなくても ESD になったりするような場所をつくりたいです。ESD・SDGsを知らない人々が、もっと気軽に ESD・SDGsに触れる機会を増やしたいと考えており、ESD・SDGsに難しいというマイナスな印象を持たないように、ESD・SDGsに取り組む方々から直接話を聞けたり、意図しなくても ESD・SDGsが出来たりする場所をつくりたいからです。私は ESD 日本ユースの一員として、ともに新しいプロジェクトを考える仲間をつくり、様々な地域をつなぐサークルをつくって地域性を生かした活動を行いたいと考えています。

ふりがな 氏名	いとう ななみ <b>伊藤 菜々美</b>	都道府県	東京都	
所属/肩書	・認定 NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン / ファシリテーター・モチベーションスピーカー ・エシカル YouTuber スタジオななみん			
私のESD活動	子どもから大人に対し「社会問題×リーダーシップ」をオフライン/オンラインの両方で発信している			

## 活動の概要

認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの職員として、小・中・高校生に対し、今世界で起きている社会問題を知り、自分ゴトとして考えアクションを起こす力を育てるための、出前授業やキャンプを実施。ここでは、社会問題解決のためにアクションを起こすことは、そんなに難しいことではなく、自分の好きなこと・得意なことを活かして、自分自身も楽しんで出来ることを見つけることの大切さを伝えている。“真面目に”“かしまって”やらなくてはならないアクションは、ハードルが高くなり、自分で遠ざけてしまいがち。持続可能なアクションは、“Gift を活かしたワクワクするもの”という考えをもとにワークショップを行い、それぞれのアクションを見つけることをサポートしている。

しかし、実際に会って伝えることが出来る人は、年間 1 万人程度。まだまだ、伝えたいこと・伝えたい相手は沢山いる。そこで、YouTube チャンネル「スタジオななみん」を開設。現在、小～高校生にとって、YouTube は身近な存在で、毎日の様に見ている人が多い。私が一番メッセージを伝えたい層と合致しているため、チャンネルでの動画配信を開始。ここでは、社会問題ばかりを扱っていると視聴者層が限られてしまうので、旅や異文化などの楽しい内容をメインにしつつ、同時に社会問題を伝え、自分たちに何が出来るかを考えるきっかけを提供している。オンライン・オフラインで、社会問題を考えることを身近にしていく。

○「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」 <http://www.ftcj.com>

○「スタジオななみん」 <https://www.youtube.com/channel/UCr75sAMskJe88PdMWwMm8Vg>

## 今後の活動や協働への展望

今回のコンファレンスを元に行いたいことは、以下の通り。

- ・他の参加者とのコラボレーションを積極的に行い、学校で活用できる教材やプログラムの開発に取り組む。
- ・YouTube チャンネルでの ESD 要素を強化、情報発信。

全国のようなフィールドで活動する参加者との出会いは、考えるべきテーマのアイデアや伝え方など、持ち帰る事が多いと感じている。持続可能な社会に向けて、自分自身が考え、アクションを起こすことは当たり前で、楽しくて、かっこいいことだという文化を作っていきたい。そのためには、様々なフィールドで活躍している様々な人の存在を知り、そしてその話を聞くことも大切だと考える。特に子ども達にとって、様々な人から話を聞く機会は多くなく、積極的にその機会をつくっていくことも大人の役割、特段年齢の近い私達ユースだと考えるので、力を入れていきたい。

ふりがな 氏名	いまなか まみ	都道府県	愛知県	
	今中 麻美			
所属/肩書	名古屋ユネスコ協会青年部若鯨組			
私のESD活動	民間ユネスコ運動によって、主に若い世代を中心により多くの人が「平和」について考えるきっかけづくりをしている			

### 活動の概要

広島出身の被爆3世で幼いうちから平和について考えてきました。高校ではユネスコクラブに、大学に進学してから名古屋ユネスコ協会青年部若鯨組に所属し、民間ユネスコ運動を行っています。今年2月に岐阜県ユネスコ協会主催カンボジアスタディツアーに参加し、日本ユネスコ協会連盟が途上国で展開している寺子屋や小学校、孤児院、キリングフィールド等を訪問し、帰国後に岐阜県ユネスコ協会の定例会や名古屋ユネスコ協会の総会において、また南山大学の講義の一環としての「ユネスコ講演会」の中でスタディツアーの報告を行いました。今年9月には名古屋市内の高校でスタディツアー報告とカンボジア勉強会を行う予定です。また、異文化理解を目的とした世界の遊びといった名古屋ユネスコ協会の活動をはじめとする民間ユネスコ運動への参加、社会問題に若者が向き合い平和について考え行動するきっかけをつくるU-come (UNESCO communication meeting) というイベントのスタッフを行っています。イノベーティブな取り組みとしては、カンボジアの報告を行う際、カンボジアの負の遺産を例に挙げて争いを起こしてしまう人の心に焦点を当て、ユネスコ憲章をもとに平和で持続可能な社会のために私たちにできることを考えています。また、国際理解教育の一環としてカンボジアとSkype等を用いた直接的な交流を行う取り組みを始めたいと考えています。

○「名古屋ユネスコ協会」 <http://www.unesco.or.jp/nagoya/>

○「U-come」 <https://www.u-comepeace.com/>

### 今後の活動や協働への展望

民間ユネスコ運動のなかでユネスコ世界寺子屋運動や、国際理解教育、若者が社会問題に向き合うイベントを行うことにより、「平和」をはじめとする問題について、それを取り巻く「環境」「人権」「社会福祉」「地域活性化」等のさまざまな問題を視野に入れ、より多角的、複合的に「平和」について考えていくような活動を展開していくことで、自分のESD活動を発展させていきたいです。具体的には、地球の未来を担っていく若い世代が、平和や現代社会における地球規模の多様な問題について気づき考えるきっかけを作るイベントや活動、ユネスコ世界寺子屋運動を進めていく中でESD活動を発展させていきます。ESD日本ユースの一員として、コンファレンス終了後も知り合った参加者の方々と交流を持ち続け、新しい価値観や取り組みを永続的に創り出していくことで、互いの現在の活動をよりよいものにし、新しい活動を共に考え、取り組んでいきたいと思えます。また、前回までのコンファレンス参加者のESD日本ユースの方々とFacebookでつながるなど、ESD実践者の輪を積極的に広げていきたいです。その中で民間ユネスコ運動についても知ってもらい、ユネスコ会員とさまざまな分野で活動されている方々とつなぐ役割も担っていけるようになりたいと考えています。

ふりがな 氏名	おおむろ ひな	都道府県	広島県	
	<b>大室 ひな</b>			
所属/肩書	呉工業高等専門学校環境都市工学科			
私のESD活動	国際的な感覚を有して、住み続けられる街づくりのために身近な地域の課題を解決する方法を研究している			

### 活動の概要

私は将来、海外で活躍したいと思っています。これまでに一年間の交換留学を経験し、また、学内外の国際交流イベントに多数参加、自ら企画もしました。

そうした経験を通じ、現在感じている課題があります。国際的な活動にも、ローカルな視点が求められているということです。私は交通・まちづくり分野の研究室に所属していますが、ミッションである「より良い未来とまちをつくる」という視点では、地域との連携といった、ローカルな視点も国内・海外問わず求められると感じています。

現在、動物園と地域住民が連携した、住み続けられる郊外オールドニュータウンの活性化の取り組みに、研究室の学生チームで自主プロジェクトとして活動しています。このプロジェクトは、動物園前のバス停のデザインを改革することで、路線バスの利用促進のみならず、動物園の来場者促進、周辺の住宅団地の活性化を図るものです。こうしたテーマで動物園やバス会社・国・地域住民と連携して進めていく事例は殆どない、新しい取り組みであり、メディアからの取材も受けるなど非常に注目されています。安佐動物園には外国人も多く訪れており、次のステップとして地域住民と外国人の交流や、この方法を海外に輸出することも考えられます。

このように、国際感覚を持ってローカルな課題解決に取り組み、そしてその仕組みを海外にも展開するという視点を持って進めることが、先駆的な取り組みであると考えています。

○「中国新聞アルファ」掲載記事

[http://www.chugoku-np.co.jp/local/news/article.php?comment\\_id=359618&comment\\_sub\\_id=0&category\\_id=110](http://www.chugoku-np.co.jp/local/news/article.php?comment_id=359618&comment_sub_id=0&category_id=110)

### 今後の活動や協働への展望

私は、コンファレンス参加後は国内外の地域のローカルな課題を解決するプロジェクトを自ら実践者として展開していきたいと考えています。

そのために普段は講義や研究等で専門知識を深め、そして、このコンファレンスで出会った参加者の方たちと、コンファレンス終了後もビデオチャットなどを通してディスカッションや情報交換などしたいと考えています。そして、長期休暇などを利用して、実際に海外や国内の地域を訪れてローカルな課題を解決するプロジェクトを実践していくことができると思います。

例えば、2020年の東京オリンピックの開催後のまちづくりについて考えるために過去に開催地であった海外の都市を訪れ、現地ではどのような課題があり、それにどのように取り組んできたのかを調査し、それを日本に持ち帰り生かせるものは実践してみるといったケースが考えられます。また、国内においても、外国人のインバウンド需要を取り込んで、外国人を日本の国内で交流させるような取り組みもできると考えています。住み続けられるまちづくりのためには、その地域の人口流出が大きな課題となっていますが、その地域に住む人口が減少しても、外から訪れる人を増加させることでまちの経済を維持し住み続けられるまちづくりができるのではないかと考えています。

このようなプロジェクトを他分野の方々と協働で、様々な視点から問題を捉えながら実践していきたいです。

ふりがな 氏名	おのき りえ	都 道 府 県	神奈川県	
	小野木 理恵			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 医療マネジメント専修 修士</li> <li>・コミュニティナース育成プロジェクトメンバー</li> </ul>			
私のESD活動	「元気で、健康なまちづくり」に貢献するコミュニティ・ナースの育成・サポート事業			

## 活動の概要

看護師が、病院や福祉施設のような限定されたひとつの場所で働くのではなく、地域の中に飛び込み、溶け込み、長く付き合いながら時に「あっこに住んでる明るいあの子、そういえば看護師さんやったなあ！」と言われるような距離感で住民さんとパートナーシップを形成し共に活動していく「コミュニティナース」という働き方。

2016年からは、先行事例に学び、実際に地域に入り込んでのフィールドワークを通しての実践的な育成プロジェクトも開始された。

「コミュニティナースとして、地域に根差した活動でまちを元気にしたい！」という想いを胸に集った受講生たちが、今では運営側にまわり、同じ思いを胸にやってくる新たな受講生を迎え入れ、またそれぞれに「自分らしいやり方」を見つけ、コミュニティナースとしての活動を実践している。

私自身も1期生として育成プロジェクトを受講した一人であり、今後も仲間たちと新たな受講生のより良い学びのために尽力したいと考えている。お仕着せのプログラムではなく、受講者ひとりひとりのこれまでの経験やとんがりを活かした学びあいの場づくりのため、今回のコンファレンスでESD教育について改めて考えてみたいと思っている。

他、理事をしているNPOで一般市民向けのヘルパー養成講座の講師、看護大学における実技演習やグループワークのサポート、臨地実習指導等を行っている。

○「コミュニティナース育成プロジェクト」 <http://community-nurse.com/>

## 今後の活動や協働への展望

これまでの活動についても、主観的には「自分はESD活動を学習者の主体性を大切にしながら行ってきた」と一定の評価をしているが、相手は本当はどう感じていたのか？という点で自信を持ちきれずにきた。ESD活動にずっと携わっていきたいという思いはあっても、その自信のなさから腹を決めれずに過ごしてきた。

このコンファレンスに参加し、改めてESDについて仲間とともに考えてみることで、まずは「一般市民の啓発活動」「NPO法人で働くヘルパーの育成活動」「看護師養成課程の学生を対象とした実習指導活動」といった仕事での学習者との関わり方、自らのあり方を見直し、学習者が身近な問題を自分ごととしてとらえ、解決方法を工夫していくそのプロセスを大切にしたい学びの場を作っていきたい。また現在修士課程の2年生であり修了後はなんらかの形で成人学習者の教育活動に従事したいと考えている。

有志団体として活動を続けてきた「学びあいの場作り」についても、ESDでの学びを取り入れ主催者だけでなく参加者にとっても「自分ごと」を感じられる場作りを目指し、息の長い団体運営をしていきたい。

ESD日本ユースの一員としては、現時点ではどのような協働可能性があるのか具体的なイメージは出来ていないが、ESDの

担い手を増やすためこのコンファレンスのような活動の運営手伝いをさせていただけたらと思っている。

ふりがな 氏名	かがみ みき <b>加賀美 幹</b>	都道府県 <b>岡山県</b>	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>Junior Youth Spiritual Empowerment Program のアニメーター（ファシリテーター）</li> <li>岡山大学 マッチングプログラムコース</li> </ul>		
私のESD活動	ジュニアユースが社会を形成する様々な因子を見極め社会の実態を洞察する活動を東南アジアでファシリテート		

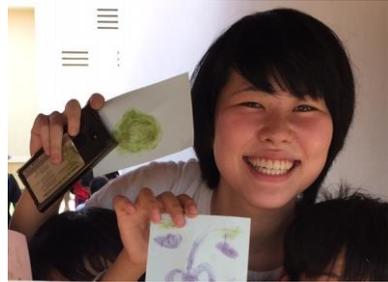
### 活動の概要

Junior Youth Spiritual Empowerment Program (JYSEP) は12-15歳程のジュニアユース (JY) を対象としたプログラムです。JY が持つ特有の可能性と周囲からの受ける影響の大きさを認めた上で、彼らが自分たちに影響を与える社会の勢力を見極め、自分たちの社会の実態を洞察できるための場として世界各国で行われています。私が関わったグループでは10人ほどの日本人学校の生徒と週に一回集まりました。言葉の表現力を養うためにストーリー形式のブックを使い、読解やディスカッションを設け、内容も道徳的価値観や精神力について取り上げて考えます。ブックの他に音楽やアート、スポーツも取り入れ、その JY のグループがお互いに信頼でき、上記のような話題について話し合える準拠集団を目指しながら、私たちユースがファシリテーターとしてサポートします。グループはまた、JY たちが企画し運営するサービスプロジェクトを行います。それは美德を学ぶ子供クラスのパログラムのお手伝いや、地域における奉仕です。私のグループではリサイクルできるものを地域から集め、ガラージセールを行い、集めたお金をカンボジアの学校に寄付しました。それは、「奉仕活動」として JY が自分の個性を発見し、それを生かし、様々な能力を伸ばす機会になります。またこの活動は子供クラス、ユースや大人の活動と相互に関わり、地域全体が参加する地域作りの活動の一環です。

○「Junior Youth Spiritual Empowerment Program」 <https://www.youtube.com/watch?v=0YEK3edTSVQ>

### 今後の活動や協働への展望

様々な活動を通して学んだことは、たとえ JYSEP や他の多くの活動が意味あるものだとしても、何かしらの変化をもたらしたい時、これらの活動が統一した目的を持たないとその変化は起きないのだということです。このコンファレンスでは、日本の他の ESD 活動に携わっているユースと関われる機会として、私たちがそれぞれの活動を通じて達成しようとしている目的や自分たちが見据える未来の日本を話し合い、分かち合ったそのビジョンを持ち帰って今後の活動に活かせればと考えています。私たちは確かに多様な活動に携わっていますが、それが孤立したものでも、ましては相反しているものではなく同じものを目指しているという意識を持って取り組んでいけたらと思っています。活動の中でも協働し、例えば JYSEP のサービスプロジェクトを通し、他の活動と関わることで、目指すものに向けて共に積み重ねていけたらと思っています。地域のコミュニティセンターなどと協力して、JYSEP が地域作りに少しでも貢献できるように、すでに地元で人が携わっている活動とも絡めて推進していきたいです。また JYSEP のコンセプトや活動がどのように日本の教育機関に貢献できるか、自分に与えられたチャンスの中で未来の教育に携わっていく仲間と会話を広げていきたいです。

ふりがな 氏名	かじもと なつみ	都 道 府 県	岡山県	
	<b>梶本 夏未</b>			
所属/肩書	岡山大学 教育学部 特別支援教育コース			
私のESD活動	誰もが能力を最大限に発揮できる就労を ASEAN 諸国で調査し、日本における働き方を変えていく			

## 活動の概要

私は産業人材育成において急成長する ASEAN 諸国において、7 か月間、企業におけるダイバーシティの受容体制について調査を行いました。現在はその結果を基に、日本の企業で働き方のダイバーシティが実現することを目指しています。ASEAN 諸国での調査時、障害の有無や、性別、経歴に関わらず純粋にその人の能力に投資し、マイノリティーの雇用にも結びついているという実情を知りました。一方で、日本のダイバーシティ推進はきめ細やかなサポートを実現しているものの、配慮事項への正しい共通理解がなされておらず、周囲の負担感等の原因になりかねないと感じました。これらの学びから、日本の企業に職場環境整備に関する提案書を提出し、それが岡山県内企業で採用されています。

私の専門は特別支援教育であり、主に障害者就労にスポットを当て活動しています。具体的には、製造業の会社で車椅子の方の作業効率を考えたデスクの作成といった環境整備や、障害者の作品ということ売りをするのではなく、純粋に質の高さで選ばれるようなブランディングを支援しています。

私は以上の活動から、無理のない働き方、仕事へのやりがいを理由に欠勤率の減少、取引先の拡大を実現し、障害者と雇用主の両者にとって有意義なものになると実感してきました。今後は、より汎用性の高い障害者雇用を目指し、その他のマイノリティーの人材育成にも結び付く先進事例を目指します。

## 今後の活動や協働への展望

学生の立場から、働き方のダイバーシティをより汎用性の高いものにしていきたいです。現在は障害者雇用に重きを置いています。その調査において企業や教育機関の方の意見をお聞きすることで、一つの職場には障害者に対する配慮だけでなく、多様なニーズがあることを感じました。本プログラムで、様々な立場で活躍されている方の視点を得ることで、私自身の活動をより発展させていけると考えています。

卒業後は教員として、ESD 活動を教育活動に取り入れたいです。その際、ESD 日本ユースの一員として他のユースの方と協働し、自分の専門に制限されない多様な学びを共有しようと考えています。具体的には、地域の方と話をする機会を授業に取り入れ、子ども達が住むエリアの社会課題が自分たちの課題意識として認識されることが動機となると考えています。その後調べ学習を起点に、深く関わる時間を持つことで、私は彼らと課題解決に取り組んでいきたいです。その際私自身の実体験や、本プログラムで繋がる同志にスカイプ等で話して頂くアドバイスが、彼らの中に ESD の意識が実感をもって培われるきっかけになると考えています。

これらの活動を通じて、次世代の ESD 実践者を育成していきます。

ふりがな 氏名	かわぐち えりこ	都 道 府 県	東京都	
	河口 枝里子			
所属/肩書	公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター / 人物交流部			
私のESD活動	教職員のための国際教育交流事業の実施運営			

## 活動の概要

私は、現在ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)にて、日本の教職員および海外(タイ・インド・中国・韓国)の教職員の教育交流プログラムの実施と運営をします。各プログラムでは、約1週間の期間で、学校訪問、教職員・児童生徒との交流や、実際に海外の先生には日本で、または日本の先生には海外で授業をしてもらう機会などを設けています。これらのプログラムでは、「ESD」を実践している学校に訪問する機会もあります。しかし、「ESD」の捉え方が、日本国内でも様々であり、さらに外国に目を向けると、その多様さはもっと増します。さらに、「ESD」という言葉を知らない教育実践者もたくさんいます。プログラムの運営者として、私が大切にしていることは、違った教育方法に優劣をつけるのではなく、その違いの背景を考えてもらう機会を設けることです。それぞれの環境や社会的背景に適応した教育や地域社会があることを知ってもらい、それぞれの先生の学校現場に持って帰ってもらうことを目標にしています。実際に、プログラム内で実施している教育交流会では、全国から日本の教職員が集まり、タイやインドの教職員と、学校の現状や課題を共有し、解決策を一緒に考える時間、そしてこれからの相互が交流できる機会を設けています。

○「公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター」 <http://www.accu.or.jp/jp/activity/person.html>

## 今後の活動や協働への展望

現在運営実施している、国際教育交流プログラムの幅を広げたいと思っています。このコンファレンスで出会った人々との出会いを通して、ESDを実践している先生同士の交流の深められる、教育交流の機会となるプログラムをつくって行きたいと思っています。ESDの担当の先生の中には、学校で孤立している事も多く、学校で悩みを共有する場、活動をさらに発展させるため、学校内外を超えて話をする機会がないと聞きます。また、ESDを知らない先生の中には、すでにESD的活動をされている方々も大勢いたりします。このような点を踏まえて、コンファレンスに参加されている方々とESD活動の現状を共有し、国際教育交流プログラムの運営を通して、教育活動の悩みを共有したり、国内外を超え、お互いに気付いていない点に気付くことができる機会を、柔軟な視点を持って、日本国内の先生、そして海外の先生が交流できるプログラム築いていきたいと思っています。

ふりがな 氏名	きのした だいすけ	都道府県	京都府	
	<b>木下 大輔</b>			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有限会社 グローバル教育研究所 / 会社員</li> <li>・一般社団法人 さよなら不登校 / 職員</li> </ul>			
私のESD活動	不登校やひきこもりの児童・生徒を対象とした学習および発達支援と「学び」のネットワーク作りの実践			

## 活動の概要

私は所属する機関の中で、京都府教育委員会の認定を受けたフリースクール(以下、FS)事業と、通信制サポート校(以下、TS)の事業に携わっている。私は FS や TS の生徒たちと関わる中で、何度も自分の思考の枠組みが壊れる経験をした。そして、その経験が痛みを伴いながらも、新しい自分や新しい世界に出会う喜びや解放感に満ちたものであり、それを他者と共有することの面白さを実感した。その結果、私はその実感を持ちながら外に開かれ、あるいは外を引き入れ、外へと働きかける不断の運動を「学び」であると考えようになった。

私はその「学び」を色々な場所で実現したいと思い、「東九条フィールドワーク(以下、FW)」という活動始めた。東九条は、在日コリアン・被差別部落・障害者など多様な人たちが、葛藤を抱えながらも対話を繰り返し、助け合いながら生活している地域である。そこへ生徒と一緒に入り込み、在日1世の方や、重篤な言語障害を持つ方と対話をしている。また準備として、事前に自分でFWをし、そこで生活する方々と対話し、文献や映像を見る中で問いを立て、生徒たちとそれらを共有している。さらに、活動後の振り返りをおこない、それを言語化しブログで発信している。その結果、生徒たちからは教科書に載っていない「学び」が面白いと評価され、FWに関わった方々には丁寧な準備と振り返りを発信し続けていることがありがたいと評価されている。

○「学びの森」ハイスクール 第1回東九条フィールドワーク <http://manabinomori.co.jp/blog/blog-968/>

○「学びの森」ハイスクール 第2回東九条フィールドワーク <http://manabinomori.co.jp/blog/blog-1059/>

## 今後の活動や協働への展望

私はコンファレンスの参加を通して、「学び」のネットワークを組織する活動をより発展させていきたいと考えている。それは、上述したような新しい「公」の教育を考えることと繋がっている。先日、日本とキューバの統合医療についてのシンポジウムに参加してきた。その中で多くの人の共通意識にあったのは、「既存の医療システムの脱構築」である。世界にさきがけ、人口ピラミッドが逆三角形を示す超少子高齢社会に向かえる我が国は、医療や福祉、教育その他あらゆる面で既存のシステムの脱構築を図らなければならないと思う。またそれに加え、AIの発展によるシンギュラリティや、自然災害がいつ起きてもおかしくないという状況で、これからの教育を共同体レベルで捉えなおす必要があると考える。

イリッチは『脱学校の社会』において、社会的・歴史的に構築されてきた文化にも、学校と同様な疎外状況が存在しているため、我々は「何を学ぶか、どのように学ぶかということの管理権」を社会のいたるところで奪還していく必要があると述べた。では、どうやって奪還するのか。「学び」のネットワークを組織することは、それに対する回答でなくてはならないと考える。そのために、私は ESD 日本ユースの一員として、他者と出会い、対話の中で「学び」、協働して社会を変革していくことが当たり前のようにおこなわれる共同体を創るよう協働していきたい。

ふりがな 氏名	くぼ けんたろう <b>久保 健太郎</b>	都道府県	東京都	
所属/肩書	・GiFT (一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト) プログラムコーディネーター ・元 Ba Provincial Free Bird Institute (フィジーの公立高校) 現地カウンセラー			
私のESD活動	<b>地球に寄り添い、世界を変えていける地球市民の意識を広めるべく、グローバルシチズンシップ育成に携わる</b>			

## 活動の概要

### ●これまでの経緯

金銭的理由や海外生活への不安から海外留学を諦めていた学生の後押しをすべく、フィジー共和国の公立高校(Ba Provincial Free Bird Institute)にて日本人留学生 120 名の現地生活サポートに従事してきましたが、より広いステージで地球市民の育成に直接的に取り組むため、GiFT に参画。

### ●自身の ESD 活動

日本人が世界への一歩を踏み出すために、6 カ国で開催しているオープン・ドア・プログラム「Diversity Voyage」をコーディネートし、学びを最大化する場づくりを行うファシリテーターとして事前・事後研修、及び現地プログラムの場作りを行っています(今夏、自身はカンボジアに同行予定)。Diversity Voyage における各国のコースでは SDGs に沿ったテーマ設定を行っており、各コースで参加者たちと共に、持続可能な開発・発展のためのアクションを推奨します。また、「トビタテ！留学 JAPAN(高校生コース)」の事前・事後研修を GiFT が担当しており、その場をファシリテーターと共にホールドするなど、官学民の垣根を超えた地球市民育成の場作りに関わっています。これから先の若者世代、その子どもの世代が自然・地球に寄り添って自分らしく在れる社会を共創するために「自分のニーズとつながる→相手とつながる→共に新しい価値を創り出す→社会に貢献する」という一連の流れを実践でき、地球規模の全体性に目を向けてローカルな目の前の世界を変えていける地球市民の育成に取り組んでいます。

○「GiFT」 <http://j-gift.org/>

○「トビタテ！留学 JAPAN(高校生コース)」 <https://www.youtube.com/watch?v=a3twZUPE5ME>

## 今後の活動や協働への展望

### ●GiFT での今後

コンファレンスで得たつながりや知識を積極的に GiFT で実践している研修に反映させていきます。プログラムをデザインする段階でコンファレンスで経た体験・実感をベースにファシリテーションを行っていきたいです。下は中学生から上は若手社会人を対象とした各種プログラムにおいて、コンファレンスで新たに生まれたつながりを活かしてプログラム前に情報交換を行い、またプログラム中に参加者のロールモデルとして招待する場を作ります。

### ●個人的な活動

「地球に寄り添った生き方」を広めていくことをライフワークにしていきます。いま自分にできることとして、自身が運営・居住する「対話」や「自然」をテーマにしたシェアハウスなどを拠点にして様々な場作りを行い、コンファレンスでの体験を糧に地球市民意識醸成のための啓発活動の幅を広げていきます。(現在決まっている活動は以下 3 つ)

○環境負荷の切り口から菜食について考える、ヴィーガン・キッチン・ワークショップをヴィーガンシェフを招いて 9/3 に開催

○10/16 の世界食料デーに合わせ、食料廃棄をテーマにした映画「0 円キッチン」の自主上映会・ワークショップを開催

○世界青年の船事業の外国人既参加青年を招き、4 カ国の青年と持続可能な社会について語るゲリラ・ガーデニングを開催  
(日程未定)

ふりがな 氏名	くらた ももえ <b>倉田 百恵</b>	都道府県	<b>群馬県</b>	
所属/肩書	<b>群馬県立女子大学 国際コミュニケーション学部</b>			
私のESD活動	<b>大学の講義を通し途上国の抱える問題について理解を深めるとともに HIV 問題についてのプレゼンを行った</b>			

### 活動の概要

高校生の時から途上国の貧困について興味があり、高校の図書室や市の図書館の本を利用しながら、自分なりに調べてきました。そして、開発途上国の貧困の現状、特に教育制度や、生活環境、病気について、家族と話し合う機会をもつことができました。すると、先日、妹から、「マララさんが行った教育活動について、彼女の書いた本の内容も含め、自分の考えを発表する」というイベントに参加することになった、という知らせを受けました。妹も途上国の貧困について興味を持ち、自ら勉強するようになっていたのです。

また、大学に入学してからは ESD に関係のある授業を積極的に履修し、さらなる知識を得るとともに、授業内で発表の場があると、貧困の国について発表してきました。また授業内で NGO や JICA の職員さんから伺った話を、家族や友人との会話の中に出し、少しでも興味を持ってもらおうとしています。現時点では、自分なりに調べているだけで活動はあまりできていませんが、今回の ESD 日本ユース・コンファレンスへの参加を通して、主観的だけでなく、客観的にも ESD についての考えを持ち、様々な活動を行っていきたくと考えています。

### 今後の活動や協働への展望

私は今回のコンファレンスを通して、大学在学中には2つのことについて行いたいと考えています。1つ目は、大学で開発経済学や政治学などの授業を履修し、開発途上国や国際政治について学んでいくことです。

そして、授業を通じてさらに知識を深めるとともに、授業内でのプレゼンテーションなどの機会を利用して、今回のコンファレンスで得た様々な方向から自分の意見を発信していきたいと考えています。二つ目は、長期休暇を利用した海外ボランティア活動や、様々なコンテストに積極的に参加することです。現時点では、外務省が主催する「国際問題プレゼンテーションコンテスト」に参加したいと考えていますが、ほかにも調べて、大学生が参加できる様々な発表の場にたくさん参加し、より多くの人に今回の経験を生かした私の考えを知ってもらいたいと考えています。そして、大学卒業後には JICA の職員などの国際支援に携わることのできる職業に就くことを希望しています。そのほかにも仕事以外の国際ボランティア活動などにも参加し、何らかの形で国際支援をしていきたいと考えています。また、これからは ESD 日本ユースの一員として Facebook や Twitter などの SNS を利用して、世界中の人に ESD について、途上国の貧困について知ってもらうきっかけを作っていきたいです。

ふりがな 氏名	くろずみ ともよ <b>黒住 知代</b>	都道府県 <b>岡山県</b>	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山大学環境理工学部環境管理工学科</li> <li>・岡山大学環境部 ECOLO 部長</li> </ul>		
私のESD活動	大学内外のフィールドで、部活動・NPO としての活動をはじめとした ESD に取り組んでいます		

## 活動の概要

学業、課外活動として自分の生活に SD の視点を組みこむことを大事にしながら ESD 活動を行ってきました。

### 1. 環境部 ECOLO での活動

学内等において環境保全活動の企画・実行を行っています。中でも最大の企画は 3 月に行うリサイクル市です。卒業生から家具を無料で回収し、新入生に低価格で提供しています。目的は、エコを身近に感じてもらうこと、また大学内でネットワークを作り無駄な消費を抑えることです。このリサイクル市は企画・配送を行う部員、参加する多くの学生、地域の方が SD を考えるきっかけとなっており、17 回目となる今年の来場者は 250 組を超えました。

### 2. ESD インターンシップの参加

NPO 法人岡山・ホームレス支援きずな(以下、きずな)でのインターンを行いました。実際の業務ではホームレスの方々と話し、生活の手伝いをする中で、ホームレスの暮らしや誰でもホームレスになりうる現実を学びました。きずなでは、ホームレスをなくすというよりむしろ、ホームレスにならざるを得なかった人たちが、どう安心に暮らせるようにするかを目的に活動しており、「本当の持続可能な社会とは何か」を考える良いきっかけになりました。インターン後も、引き続き活動に関わっており、今後もこの活動を広めたいと考えています。

### 3. その他

ESD をテーマとした模擬国連世界大会や、大学の教育プログラム(短期留学)に参加しています。

〇「環境部 ECOLO」HP

<https://www.facebook.com/%E5%B2%A1%E5%B1%B1%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E7%92%B0%E5%A2%83%E9%83%A8ECOLO-201817600002799/?fref=ts>

## 今後の活動や協働への展望

今回のコンファレンスでは、自分の中にあつたモヤモヤとしている ESD の枠を新しく更新してもらえるような仲間に出会うことに期待しています。そして、自分が現在関わっている活動でどうやって皆が ESD の視点を持ってくれるか、あるいはほかの ESD 実践者と繋がっていけるのかを模索し、それを自分の活動に生かします。

環境部 ECOLO のリサイクル市では、まず購入者、提供者が、さらに ESD としての意識をもってもらえるにはどうするかを考え、企画に盛り込みたいと思います。この活動は 3 月に行われていますが、その後これをきっかけとして部員がもっと ESD に関わっていくための取り組みも部長として行っていきたいと思っています。岡山大学の周辺には ESD 活動の場が多く、協働もしやすいです。部員たちに ESD をもっと自分のものにしてもらうことができれば岡山の ESD が広がりますし、そのための具体的な計画ができればと思います。

NPO 法人 岡山・ホームレス支援きずなでのボランティアでも同様に、大学生にこの活動の意味を知ってもらい、また、ESD として一緒に活動してくれることを目標に、どうすれば大学生に正しく、活動が伝わるのか、どのような手段を使えば興味があるけれど知らない人を巻き込めるのかをコンファレンスで得た学びをもとに実行していきたいと思っています。

どちらでも ESD と実践者の橋渡し、実践者同士の橋渡しができたらと考えています。

ふりがな 氏名	この しんや <b>河野 晋也</b>	都道府県	奈良県	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良教育大学附属小学校 / 教諭</li> <li>・近畿 ESD コンソーシアム 運営委員</li> </ul>			
私のESD活動	<b>市内の遺産など、児童に身近な人・もの・ことを題材に教材開発をし、小学生を対象とした実践を行った</b>			
<b>活動の概要</b>				
<p>ESD では、自発的に持続可能な社会づくりに参加・参画する人材の育成を目指していることから、授業実践においても、子どもの主体的な学びが大切だと考えます。そのため、子どもの「学び方」に焦点を当てた実践研究に取り組んでいます。</p> <p><b>近畿ESDコンソーシアムの活動</b>…奈良教育大学を基盤に教員、学生、大学教員らとの月数回の研修に参加しています。構成概念や SDGs、能力・価値観などの理論に関わる学習や、授業実践の検討等を行っています。これまでに、奈良の豊かな文化財や地域資源を生かし、空間的・時間的な見方を働かせて現代社会の諸課題や持続可能な社会を捉えることを目指した社会科・総合的な学習の時間の実践を作成しました。</p> <p><b>これまでの授業実践の概要</b>…総合的な学習の時間では、地域の文化財や世界遺産が人々の努力と豊かな自然環境によって守られてきたことに着目し、正倉院宝物や奈良公園の鹿、地域の昔話等を題材にして実践を行いました。社会科では、県内の高速道路建設を取り上げ、整備効果や住民の願いだけでなく、環境や防災上のような配慮が必要なのかという視点から政治の役割を考えさせたり、伝統食・柿の葉寿司を切り口にして水産資源や食料生産の問題について考える実践を行いました。どちらの教科においても、問題に対して、自分なりに考えをもち、意見を出し合い、また新たな問題に出会う、という子どもの学びを大切に授業づくりを心掛けています。</p>				
<p>○「近畿ESDコンソーシアム」 <a href="https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/esd/">https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/esd/</a></p>				
<b>今後の活動や協働への展望</b>				
<p>授業の質を高めることを、第一に考えています。たとえ授業によって ESD について十分児童が理解したとしても、それが主体的に学ぶ経験を踏まえてのことではなければ、価値観と行動の変革という目標、持続可能な社会づくりを担う人材の育成には至らないと考えます。今回の参加者の方の実践に学ばせていただいて、より主体的に子どもたちが学べるための知恵を取り入れ、新たに実践を開発していきたいと考えています。</p> <p>同様に ESD を校内・地域へ広げていくための工夫や、また教員以外のアクターの取組についても学ばせていただきたいと思っています。まだまだ ESD の認知度は限定的で、ひろがりやつながりは不十分だと感じています。相互に取組の良さを取り入れることができれば、それぞれのコンソーシアムの質が向上することはもちろんですが、今後コンソーシアム同士のつながりも増えていくのではないかと期待しています。各地のコンソーシアムはそれぞれに活動することが多く、活動の雰囲気も様々だと感じていますので、ユース間でつながっていくことでお互いのコンソーシアムに刺激を与えあい、学び合うことができると考えています。</p>				

ふりがな 氏名	ごとう きさと	都 道 府 県	東京都	
	<b>五島 希里</b>			
所属/肩書	<b>港屋株式会社 代表取締役・プロフェッショナルコーチ</b>			
私のESD活動	<b>社会課題の担い手育成×ファンドレイジング</b>			

## 活動の概要

大学時代に ESD を卒業論文テーマに選びました。現在は起業して実践中ですが、当時より取り組みの根本にある問いは「どうしたら、生まれた環境(=格差)を乗り越えて、自分の才能を発揮できる人が育つのか?」というものです。これに対し、現在「スカラシップヤード」という事業(以下①②)を通して実践しています。

### ①自分の才能を発揮できる人を育てるには?

私立中高の ESD 推進委員会等と協力し、「総合的な学習の時間」等の中で、生徒が自分の関心事や社会課題を SDGs や ESD の観点から考え、自分たちなりの取り組み案(プロジェクト)を創出するサポートを行っています。この過程では、コーチングを用いて個々の強みをチームワークに活かしたり、ルーブリックやポートフォリオを作ったり、教員の授業支援や学び合いの支援等も行っています。

### ②生まれた環境を乗り越えるには?

上記プロジェクトが資金を理由に制限されることのないよう、各学校専用のクラウドファンディングサイトを貸出し、プロジェクトへの共感によって寄付を集められる仕組みを作りました。通常クラウドファンディングサイトでは、手数料が全て運営会社に入りますが、それらが学校の奨学金となるよう設計し、生徒がプロジェクトにチャレンジすればするほど、奨学金を生み出せる仕組みとしています。またそれにより、プロジェクト内容及びその成否が、予定不調和なりアリティあるものとなります。

○「港屋株式会社」 <http://www.minatoya-jpn.com/>

○「スカラシップヤード」 <https://scholarshipyard.com/>

## 今後の活動や協働への展望

### ■スカラシップヤードを通じた活動展望

現在取り組んでいる「プロジェクト×学校のファンドレイジング(=スカラシップヤード)」の活動については、私自身が事業責任を持っているため、新たな視点や方策をすぐに取り入れ、様々なステークホルダーと組みながら実行することができます。また、ユネスコスクールなども含む中学校・高等学校と授業等で一緒しているため、その事業や授業を通して、対話の場や活動の機会を作ることができると考えています。そういった活動の中で、よい事例やぜひ全国へ広めたい取り組みが出てきた際には、ESD 日本ユースの一員として情報共有していきたいと考えています。

### ■個人としての活動展望

大学生時代に卒業論文執筆及びそれまでの研究題材として ESD を選びましたが、当時(2007)から国際情勢及び国内の状況は大きく変化しています。執筆当時より、「企業の立場から、より多くの市民に働きかける活動として実践する」ことを目標としておりましたが、現在、実際に社会で実践できる立場となり、改めてアカデミックなアプローチと実践の両側面が必要であると感じます。事業実践との時間配分が重要ですが、大学院等でのより深い研究も展望しています。

ふりがな 氏名	しみず はづき <b>清水 葉月</b>	都道府県	神奈川県
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海大学チャレンジセンター ユニークプロジェクト Connect 代表</li> <li>・東海大学 文学部 心理・社会学科</li> </ul>		
私のESD活動	<b>社会教育の理念に基づき、秦野市において子ども・若者の地域社会への参加と自立支援を行う。</b>		

## 活動の概要

私は大学1年次から現在まで、社会教育主事課程と教職課程を履修しており、子ども・若者に関する教育を中心に学んできた。今までの学びを活かし、地域に出て子ども・若者を支援したいという強い気持ちから、今年度より東海大学チャレンジセンターユニークプロジェクトとして団体を立ち上げた。東海大学チャレンジセンターとは、学生の地域連携課外活動を支援するセンターだ。学生達は大学の支援を受け、SDGsの課題を基盤として自治的に地域課題解決の活動を行っている。

自身が運営する団体 Connect では、秦野市を舞台に「子ども・若者が社会参加を通じて、人と人、人と社会とつながり、自分らしく生きていく」をテーマに活動を行っている。社会教育の理念に基づき、地域において子ども・若者の社会参加と自主的な学習の実現が達成目標である。主に関わっているのは、社会教育主事・司書・学芸員・教職課程の学生である。

これまで市内の児童館や児童ホーム、教育関係施設へ聞き取りを実施し、地域特有の課題とニーズを調査した。結果を踏まえ、各人の得意分野や知識を活用し、子ども・若者の支援を模索している。現在、①夏休みの自由研究支援として理科の実験企画、②司書課程と日本文学科の学生が主になり物語を通じた支援、③3月末に公民館でのミニ・ミュンヘンの実施、の3つの企画が進行中だ。秦野市特有の課題を把握し、随時リフレクションを繰り返しながら課題解決へ向けて活動している。

○「東海大学チャレンジセンターユニークプロジェクト Connect 広報用 Facebook」 <https://www.facebook.com/ConnectTokaiuni/>

○「東海大学 チャレンジセンター」 <http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/challenge/>

## 今後の活動や協働への展望

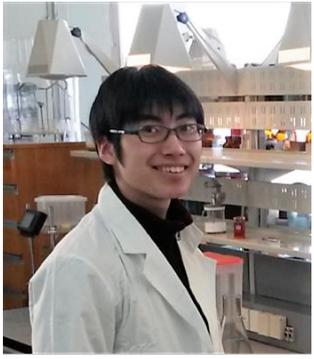
このコンファレンスでの経験を活かし、①地域連携の強化、②ニーズに的確に応える支援の実現、③団体規模の拡大を行うことで、活動の発展を目指す。

今後の社会で求められる支援は、人と人、人と社会をつなぐ「ハブ」的な取り組みだと考えている。そして、私達の活動も、地域と子ども・若者達をつなぐ環境醸成が到達点である。しかし、自身の団体の活動には、上記3点の課題が存在している。

そこで、本コンファレンスでの学びを活動に活かし、地域連携を強化させ、地域の「みんな」で「みんなの」教育を考える支援の実現を目指す。具体的には、地域と交渉を重ね、信頼関係を築く。現在進行中の企画について、学びを提供するのではなく、共に検討できる体制作りを行う。団体が「ハブ」となり、多くの地域関係者を巻き込んでいこうと考えている。

さらに、若手 ESD 実践者の方々から団体運営の方法を学ぶことで、的確にニーズに応え、かつ実現可能な支援活動を実践していこうと考える。そして、団体規模を拡大し、登録学生50名以上の「チャレンジプロジェクト」へ昇格し、継続的な支援活動を目指す。このコンファレンスから得た学びの成果を、教育・地域の発展に還元する。

また、ESD 日本ユースの一員として、ESD 実践者とのつながりから学びを深め、社会教育に携わる者として ESD の周知を図り、今後も地域と連携した教育支援活動に取り組むことで、社会教育の視点から ESD 全体に貢献したいと考える。

ふりがな 氏名	しんじょう なおあき <b>新莊 直明</b>	都 道 府 県	<b>東京都</b>	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年環境 NGO Climate Youth Japan 副代表</li> <li>・東京大学大学院理学系研究科修士課程</li> </ul>			
私のESD活動	<b>気候変動問題の解決に向けた官僚との意見交換と、若者・学生を対象とした普及啓発活動</b>			
<b>活動の概要</b>				
<p>Climate Youth Japan の副代表・国内政策プロジェクト統括として、日本における気候変動対策が、より持続可能な、将来世代に向けたものになることを目指し、活動してきました。</p> <p>昨年 11 月にユース代表として行った環境省中央環境審議会長期低炭素ビジョン小委員会におけるプレゼンテーションでは、提言内容の策定に携わり、2050 年に向けた長期低炭素ビジョンが、将来あるべき姿から逆算して策定されるべきであることを訴えました。</p> <p>東京 2020 五輪に向けて、持続可能性に配慮した東京五輪のムーブメントを全国に広げていくことを目指し、今年 2 月に東京 2020 五輪組織委員会委員をゲストにお呼びして、他の三つの学生団体とともに 50 人規模のイベントを運営・開催しました。そのイベントを契機に、様々な分野の社会人・団体との協働が始まりました。</p> <p>今年の 6 月には、気候変動による海面上昇の影響を大きく受けている、マーシャル諸島大統領のご息女の来日に合わせ、彼女をゲストに迎え、彼女を支援する団体とイベントを共催しました。そこでは、日本の若者・学生が、気候変動の影響を現在進行形で受けている国の現状を彼女から直接聞くことで、将来の気候変動の影響を緩和し、すでに現れている影響に適応するために、自分たちに何ができるか考え、彼女との意見交換を英語で行いました。</p>				
<p>○「Climate Youth Japan (CYJ) Facebook」 <a href="https://www.facebook.com/climateyouthjapan/">https://www.facebook.com/climateyouthjapan/</a></p> <p>○「Climate Youth Japan (CYJ)」 <a href="http://climateyouthjapan.org/">http://climateyouthjapan.org/</a></p>				
<b>今後の活動や協働への展望</b>				
<p>気候変動問題はあらゆる生産・消費活動によって排出される温室効果ガスが原因になっているため、様々な利害が複雑に絡み合っており、行政、企業、NGO どの一つの立場だけでも解決することは困難です。このことは、省庁・企業のみならずとの意見交換を通じて再認識されたことでした。今後は、ESD の実践者同士で強く連携することにより、省庁・企業など他の立場の方々を巻き込んでいきたいと思えます。</p> <p>Climate Youth Japan としては、東京 2020 五輪に向けて、「オリンピック競技大会開催について持続可能な開発を促進する」というオリンピック憲章の理念を全国に広め、持続可能性に配慮した取り組みを五輪開催後もレガシーとして残せるように活動していきます。そのムーブメントを大きく広げるため、コンファレンスで出会った実践者のみなさまと協働したいと思います。さらに、これまでの省庁との意見交換会を発展させ、単なる意見交換から官民協働での持続可能な社会づくりへとつなげたり、企業に対して持続可能なライフスタイルや商品の提案を行い、実現させたりというように、活動の幅を広げていきたいと考えています。それに際しての政策の立案・提言やサービス・商品の開発を、ESD を実践する他の日本ユース団体・個人と一緒に行っていきたいと願っています。</p>				

ふりがな 氏名	すぎやま ともりの	都 道 府 県	愛知県	
	杉山 友規			
所属/肩書	名古屋国際中学校・高等学校 / 教諭			
私のESD活動	国際ボランティア研修の運営とフェアトレード学習活動、SGH アソシエイト校としての取り組み			

## 活動の概要

### 1. 国際ボランティア研修の運営とフェアトレード学習活動

高校 2 年生を対象としたフィリピンでの海外研修に関して、帰国後の国際ボランティア研修を担当。具体的には、現地校とのインターネット通話を用いた交流活動の運営や、認定 NPO 法人アイキャンと連携して行うフェアトレード商品の販売学習(2013 年度 JICA グローバル教育コンクール・グローバル教育取組部門佳作受賞)の運営を行なっている。地域企業と連携し、本校独自のフェアトレードコーヒー商品を継続的に製作する一方で、昨年度はそれらをカーボンオフセット商品として企画・販売し、学習の幅を広げた。また、校内にてフィリピンのストリートチルドレンの社会復帰を支援する街頭募金活動への参加呼びかけも実施し、現在では研修参加者が自主的に仲間を集めながら活動の輪を広げている。

### 2. SGH アソシエイト校としての取り組み

文部科学省スーパーグローバルハイスクール・アソシエイト校指定(2015 年度)を受け、本校では昨年度よりアクティブ・ラーニング形式の学校設定科目「SIA(Sustainability in Action!) 特論」を開講している。私は授業担当者として、本校の ESD 探究テーマ「経済活動と貧困」、「多文化共生と減災」、「社会生活と循環」に関する社会課題を議論・発表する授業を行なっている。また、年次活動報告会では 2015 年度に報告会運営リーダーを務め、2016 年度には公開授業(SIA 特論)を担当した。

○「名古屋国際中学校・高等学校」(SGH アソシエイト分野) <http://www.nihs.ed.jp/sgh/entry-395.html>

## 今後の活動や協働への展望

私は、キャリア教育こそが中高生を指導する教員としてできる ESD への最大の貢献だと考えています。生徒と共に校内で ESD 活動を実践し、そこで得た学びや経験をもとに進路指導を行いたいと考えています。本校は昨年度より ESD 重点校形成事業サステナブル・スクールの認定校となり、中学生を中心に気候変動に関する学習を進めています。中学課程において環境学習を通じ、国際的な課題に目を向け、高校課程では多くの生徒が多様な分野に興味を持ち、ESD 活動の実践に取り組んで行くこと目標としています。そして、生徒たちが社会に出て次世代の ESD 活動の担い手となり、ESD 全体の発展に寄与してもらいたいと願っています。

教員である私の校内での役割は、生徒に ESD 活動の選択肢を提供することです。現在、中学生では環境問題・貧困問題に関して自治体の環境調査への協力や、企業の CSR 活動に参加しています。高校生は独自のフェアトレードコーヒーの製作、および新規活動として難民支援活動などの取り組みを実践中です。今後も、協力機関との連携を強化し、生徒が自ら参加する活動を選び、自発的に国際貢献に接する態度を養える環境を整えることで、ESD に求められる人格の発達を推進したいと考えています。私は ESD 日本ユースの一員として、一人でも多くの若手人材に ESD 活動に参加してほしいと思っており、様々な年齢層に活動を呼びかけながら ESD 活動を広げていきたいと思っています。

ふりがな 氏名	すずき よういち	都 道 府 県	神奈川県	
	鈴木 洋一			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Wake Up Japan 代表理事</li> <li>• (特活) オックスファム・ジャパン ユースプログラム・コーディネーター</li> </ul>			
私のESD活動	開発教育協会ソーシャル・アクション クラスのコーディネーターをはじめ、青少年と社会変革に従事			

## 活動の概要

学生時代より模擬国連の全日本共同代表として活動する。2008年 G8 洞爺湖サミットでは、若者としての政策提言を行う。また、横浜市との協働事業として、同市北区にてアフリカ開発会議に関連した啓発事業を展開した。2009年にマレーシアにて、青少年に対する環境啓発活動を行った後、(特活)オックスファム・ジャパンに勤務し、啓発及び青少年育成を担当する。全国各地の学生を対象にしたシティズンシップ育成事業を担当し、地球規模の課題に対して問題意識を持ち、地域から活動する人材育成に従事する。MDGs 推進に対するフォト署名では、6年間で動員人数の26倍増加を達成する。2014年には気候変動とエネルギー問題に対する若者のプラットフォームである Powershift Japan に共同創設者として関わる。2016年には、国内外の社会問題に取り組む人々のプラットフォームとして Wake Up Japan を創設。関連して一橋大学や豪州 Deakin 大学で講演を行う。自己肯定感が低く、社会的にも社会変革の成功体験の共有が少ない環境の中におけるシティズンシップ育成事業を展開する。また、(特活)開発教育協会のソーシャル・アクション クラスにてコーディネーターを担当し、同 NPO の出版した「ソーシャル・アクション ガイドブック」に共同執筆者としてかかわる。2017年からは、(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパンにて、ユースエンゲージメントアドバイザーとして、日本における青少年の SDGs を軸とした社会参画についての事業補佐として活動する。

○「CHANGE Initiative(オックスファム・ジャパン)」 <http://oxfam.jp/whatyoucan/05/change-initiative.html>

○「Wake Up Japan」 <https://wakeupjapan.jimdo.com/>

## 今後の活動や協働への展望

私がコンファレンスに参加するうえで提供できることは、諸外国における社会活動とその前提となっている環境についての知見であると考えている。ブラジルにおける「被抑圧者の教育」、アメリカで2014年以降活性化している Black Lives Matter や宗教間対話などの活動などの事例から、人々が社会課題をどのように認識し、その危機意識を社会としてどのように育み、問題解決の行動へと促していったのか、また、その流れの中での教育が果たしてきた役割について、知りうる事例提供や日本における活動から見えた違いなどを提起し、日本で活動を続けてきた方々からのフィードバックを受けつつ、ESD を軸として、日本から地球規模の課題に対して自分事として考え、その解決に向けて行動する市民を如何にして育てていくのかについての視座を得たいと考えている。

また、このコンファレンスでの交流や培われたネットワークを Wake Up Japan をはじめとした、自分がかかわる活動ともつなげ、日本社会全体にインパクトを与える活動につなげていければとも考えている。

ふりがな 氏名	せきもと あやこ	都道府県	兵庫県	
	関本 彩子			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸大学発達科学部人間表現学科</li> <li>兵庫県青年国際交流機構幹事</li> </ul>			
私のESD活動	「兵庫県青年国際交流機構」を通じての国際交流や「音遊びの会」「表現コンサート」を通じての芸術活動			

## 活動の概要

内閣府青年国際交流事業「世界青年の船(SWY)」に参加し、その後 OB/OG 団体である兵庫県青年国際交流機構(兵庫県IYEO)で国際交流活動を行っている。2013 年から4年、会長を務め、海外青年の日本での交流やホームステイの企画・運営を行ったカフェでムスリムの青年にハラール料理を作った貰い、ムスリムへの理解を深めるイベントの企画など、国際理解を広めることに努めている。また、海外で行われる SWY の同窓会に参加し、エジプト・トルコ・フィジー・ペルーなどを訪れ、様々な国の青年と交流している。

2014 年からは神戸大学発達科学部に社会人として入学し、音楽やダンス・美術といった表現を学んでいる。神戸大学人間環境学研究科の大学院生が始めた「音遊びの会」という障害を持つ人とミュージシャンが即興音楽を行うグループに参加している。また、2016 年からは、発達科学部人間表現学科の学生を中心に行っている「表現コンサート」の立ち上げに携わり、大学内で音楽・踊り・美術の交わり合った催しを試みる学生の研鑽の場を作ると共に、コンサートが地域の人々の憩いの場となるように努めている。

誰もが自分らしく生き活きと暮らせる社会を目指して、国際交流や芸術活動を中心に活動している。

○「音遊びの会」 <http://otoasobi.main.jp>

○「神戸大学発達科学部表現コンサート」 <https://twitter.com/hyogenconcert>

## 今後の活動や協働への展望

私は日本の音楽・音文化を中心とする研究者を目指している。地域社会の中で身近にあった、民謡や祭の音楽の研究を進めると共に、今までやってきた国際交流活動や芸術活動を続けていきたいと考えている。日本の教育課程の中で削減されていっている音楽や美術を補えるような地域でのイベントを作っていき、多くの人に開かれたアートの創造に寄与していきたいと考えている。

ESD には様々な課題があるが、魅力的な個性を持つ地域の存在が欠かせない。地域を支えるのは、その地域の住民である。海外の魅力や、アートの魅力を元に住民参加型のイベントを企画して、地域の活性化を図っていきたいと考えている。

大学・大学院時代を過ごした北海道札幌市、現在住んでいる兵庫県、ワーキングホリディ中に滞在したアイルランド、ポルトガルといった場所に関わる活動に携わりたい。全国組織である日本青年国際交流機構の繋がりや、世界 40 カ国を訪問した経験があるので、地域とアート(特に音楽活動)・国際交流に関わることを中心の協働を考えている。

ふりがな 氏名	たかはし はじめ	都道府県	岡山県	
	高橋 元			
所属/肩書	岡山県立矢掛高等学校 / 教諭 (サイエンス部顧問・環境科担当)			
私のESD活動	サイエンス部での科学実験教室による地域協力と校内での環境教育			

### 活動の概要

①私が矢掛高校に赴任した2年目から、サイエンス部の生徒とともに、町内で月に一回開催される朝市に参加し、子どもからお年寄りまで、地域の方を対象に科学実験教室を開催している。本校のある矢掛町は周辺の都市部に人口が流出し、高齢化が加速している中山間地域であり、本校へ入学する生徒も減少しているのが現状である。そこで、矢掛町主催で地域活性化を目的としている朝市を盛り上げるお手伝いをさせてもらい、高校生の活動を通して矢掛高校を地域の方に知ってもらうことを目的にこの活動をはじめた。この科学実験教室は科学実験おもちゃなどを中心に、安全・簡単に行うことができ、身近な科学の面白さを体験できることをコンセプトに行っている。幼稚園や小学生の子供が親子で参加してくれるため、朝市自体の集客にも一役買っているほか、地域のお年寄りとの交流の場ともなっている。また、異世代と関わる機会の少ない本校生徒にとって貴重な体験の場となっており、進路選択にも活かされている。過去の実施内容等は先輩から後輩へ引き継がれるようになっており、現場での活動も生徒だけで行えるようにしており、顧問が転勤によって変わった場合にも活動が引き継がれるように工夫している。

②本校の環境教育を担当しており、身近にある環境問題を取り上げ、生徒の問題解決力等を伸ばせるような授業形態を他の教員と模索している。

### 今後の活動や協働への展望

サイエンス部の朝市への参加は理系の生徒だけでなく、教育、経済、地域学などを考えている生徒に対しても価値のある教材であると考えている。しかし、学校から地域へ出向だけの活動になっており、それ以上の広がりをもっていなかったため、他の機関や実践者と協力し、より発展性のある学びの場としていきたい。現在、朝市への参加は5年目となり、地域の方に矢掛高校の生徒を知ってもらうことはできつつあるものの、生徒から地域のことを知り、地域のための活動を生徒主体で行うことはできておらず、次の目標と考えている。生徒から新しいアイデアは出てきているのでそれを形にしていきたい。

私はESDの核となる考えは視点教育であると考えている。年齢・性別・職業・地域・国など様々な立場からものを見ることで100人が100通りのものの見方をすることが可能であり、それぞれの立場から解決策を考えることが可能である。そして、それぞれの立場を尊重しつつ活動することで、一つのものの見方ではたどり着けない問題解決につながっていくと考えている。そのため、多くの視点で考え、他とのつながりを意識できる教育を目指していきたい

ふりがな 氏名	たかはし みさき <b>高橋 美佐紀</b>	都道府県 <b>鳥取県</b>	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公立鳥取環境大学環境学部環境学科</li> <li>・ 青年環境 NGO Climate Youth Japan (COP23 派遣事業統括)</li> </ul>		
私のESD活動	<b>大学四年間を通し、グローバルとローカルの両軸で ESD を含む環境活動、野外教育を実践しています</b>		

### 活動の概要

グローバルレベルでは、青年環境 NGO Climate Youth Japan で、気候リーダーの育成と気候変動問題への関心を高めるユース向けのイベントを開催しています。事業は三つ(サステナリンピック[Sustainable+Olympic・Paralympic]事業、COP 派遣事業、国内アドボカシー事業)あり、直近では「オリンピックの持続可能性」について学ぶイベントや、マーシャル諸島の環境活動家をお招きした交流会を開催しました。イベントの基本的な流れは、専門家を講師として招き、ユースを交えたディスカッション後、アウトプットの場としてワークショップを行います。活動を始めたいユースが活動とつながる場、そして既に活動しているユースが他分野につながる場を提供することを意識し、オンラインベースで企画運営をしている団体です。また今年度は COP23 派遣事業の統括をしており、国際交渉の勉強会や専門家を交えたスキルアップ研修、海外団体との連携、COP23 への派遣(予定)を行い、少数精鋭を意識した気候リーダーの育成をしています。

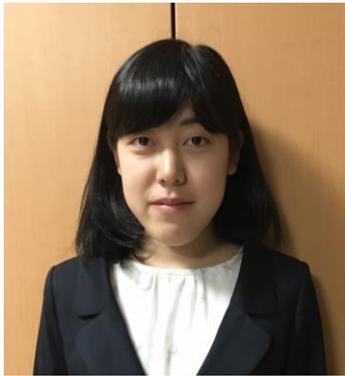
そしてローカルなレベルでは、森のようちえんや、尼崎市立美方高原自然の家での学生リーダー、山陰海岸ジオパークで海の学校の運営補助をはじめとした野外教育活動を実践しています。幼少期の自然と触れ合う原体験が、自然を守りたいというマインドを育てると考えているためです。また、教育実習では道徳の授業内で「トトロの森」を題材とし、どこまで人間が自然に介入するのかを議論する ESD の授業を行いました。

○「Climate Youth Japan Facebook」 <https://www.facebook.com/climateyouthjapan>

### 今後の活動や協働への展望

近い将来、FAO や CIFOR といった森林系の国際機関、または国際環境 NGO の職員となり、インドネシアにおける林業を、破壊する林業から管理する持続可能な林業へと変えることに取り組みたいと思っています。特にインドネシアでは、パームオイル(ヤシ油)プランテーションによって多くの森が破壊されており、その大規模消費者である先進国民が、いかにエシカルな消費ができるかが鍵となっています。このような点で、どのような ESD を行えば、一般市民が「自身の消費活動」と「遠い熱帯雨林の破壊」をつなげて考えることができるのかを日々試行錯誤しているところであり、この活路が本イベントを通して少しでも見えることを私自身の成果としています。

また、本イベントでできるつながりも後々必ず役に立つと確信しています。今まで、解決したい社会問題に対して一つの観点から取り組むと行き詰ってしまうこと、そして、全く関係ないと思っていた分野の活動とつながることで新たな解決策・必要なソースにたどり着くことができることを、身をもって経験してきました。本イベント終了後も参加者とコンタクトをとり、お互いの活動に参加しあう関係を保ちたいと考えています。そして、私自身が気候リーダーの育成を Climate Youth Japan で担当しているということもあり、環境問題に興味のあるユースに対して気候変動に関する ESD を受ける機会を提供できると思います。

ふりがな 氏名	たかはら みなこ	都 道 府 県	北海道	
	高原 実那子			
所属/肩書	酪農学園大学農食環境学群環境共生学類			
私のESD活動	札幌市民に対する環境教育と大学での国際交流と環境教育の活動			

### 活動の概要

私は大きく分けて2つの ESD 活動をしている。1つ目は、札幌市環境プラザの学生サポーター制度「あそ+エコ(あそえこ)事業部」での活動である。具体的には、環境プラザの事業である「エコ育広場」と呼ばれる環境教育プログラムや、ワークショップのサポートを行っている。また、学生サポーターで企画している小学生以下を対象とした図鑑作りなども行っている。この図鑑は調べることが目的ではなく、子供たちに外に出て自然に触れてもらうことが目的である。そのため、ミニゲームやクイズを取り入れて、調べた後に、確認して納得するために自然に外に出たくなるような仕組みになっている。2つ目は酪農学園大学国際交流サークル SukaRela での活動である。SukaRela では、外国人と交流するだけでなく、中国の内モンゴル自治区での緑化活動や環境教育、マレーシアのボルネオでの熱帯雨林の再生事業団体のサポートなどを、酪農学園大学の特性を生かして、学生が主体で行っている。私は、内モンゴル自治区での現地の方に向けた砂漠化に関する環境教育を担当していて、実際に9月上旬に現地を訪問し、活動する予定だ。

○「酪農学園大学国際交流サークルスカレラ Facebook ページ」 <https://www.facebook.com/nahiyafund>

○「札幌市環境プラザHP」 <http://www.kankyo.sl-plaza.jp/>

### 今後の活動や協働への展望

コンファレンスの参加者は、学生ではなく仕事として ESD を実践している方も多いと思う。コンファレンス終了後も連絡を取り、環境プラザや大学でイベントなどを企画して、知り合った参加者の方を講師として呼びたい。また、参加した学生同士でコミュニティーを作り、継続的に情報共有をしていきたい。自分が学生であることをフルに活用して、お互い繋がりのある学生たちと交流を深めて、コミュニティーを大きくし、自分自身も ESD の取り組みを発信していきたい。

私が通う酪農学園大学には、将来、環境調査官など、環境のプロフェッショナルになる人も多い。将来的には、そうした人と教育に関わる人を繋げることができるようになりたい。

ふりがな 氏名	たけうち ゆりえ <b>武内 友里恵</b>	都道府県	東京都	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渋谷ユネスコ協会連盟会員</li> <li>・ 上智大学総合グローバル学部総合グローバル学科</li> </ul>			
私のESD活動	ユネスコスクールでの学びとユネスコ活動、教育への探求心に基づくサークル活動			

## 活動の概要

私は、中高6年間をユネスコスクールである不二聖心女子学院で学びました。当時行ったESD活動は社会福祉、国際貢献、気候変動教育に関する活動です。社会福祉の面では自主的にサマーショートボランティアに参加しました。国際貢献活動では、高校1年時にマルタ共和国、高校2年時にカンボジアでの研修に参加しました。そこでは異文化交流を企画して実施しました。特にカンボジアでは内戦の歴史を学び、教育の重要性を痛感する機会となりました。他にも、難民教育基金の日本事務所長を招いた講演会の後、難民の方々の郷土料理を再現する初の企画を立ち上げ、結果的に校内で難民や世界の課題への関心を広めることができました。気候変動に関する活動としては、学校内の森林の環境改善を図る活動を行いました。実際に森の健康診断や植樹を行う取り組みは、全国でも類を見ない先駆的な取り組みです。結果として日本の林業における課題や生物多様性について理解を深めました。

大学入学後はインドとフィリピンの初等教育支援を行う「めぐこーアジアの子どもたちの自立を助ける会」に入会し、募金活動やグローバルフェスタでの出店を行い、開発途上国での教育の機会均等を目指しています。また日本ユネスコ協会連盟に加入し、地域での活動だけでなく全国の青年が集う大会やユネスコ活動70周年記念の大会に参加し、ESD活動に携わる方々とのつながりを強化し活動の幅をさらに広げています。

○「高校でのESD活動の具体例として、難民の方々の郷土料理を作る企画について」 [http://www.fujiseishin-jh.ed.jp/school\\_diary/2016/02/6526/](http://www.fujiseishin-jh.ed.jp/school_diary/2016/02/6526/)

○「大学で行っているサークル活動のホームページ」 <http://meguko.net/>

## 今後の活動や協働への展望

コンファレンスへの参加によって、自分のこれまでの活動を振り返るとともに、いま国内外でどのような活動が行われているのか、また若者がどうかかわっているのかを知ることができると思います。それらの学びや話し合いで得た成果を生かして、コンファレンスで出会った方々と共に、ESDに関する今までよりも高度な活動や社会への働きかけを行いたいです。また、自分が所属している渋谷ユネスコ協会連盟の活動を発展させたいです。例えばESDやユネスコ活動について様々な世代の地域の方々に発信し、平和や教育を身近な話題として改めて考えるきっかけを作りたいです。また、これまでのユネスコ活動で出会った全国の青年たちとともに何らかの行動を起こし、若年層が減少しつつある日本のユネスコ活動をさらに盛り上げていきたいです。

当然ではありますがESDや国際社会の取り組み、日本の課題、グローバル化した世界での平和構築について勉強を深め、これからの進路や研究につなげていきたいと考えています。

他には大学でも、過去にESDユース・コンファレンスに参加した友人や、教育への高い関心を持つサークルの友人とともに、国際社会を構成する主体である市民として大学内外でESD活動に関する啓発活動ができるのではないかと考えます。このようにESD活動を発展させていくことで、ESD日本ユースとしてその取り組みを国内外に発信し、現状の改善に向けて協働していきたいです。

ふりがな 氏名	たなか たかひさ <b>田中 嵩久</b>	都道府県	愛知県	
所属/肩書	一般社団法人アンビシャス・ネットワーク / 代表理事			
私のESD活動	貧困家庭の子どもへの新たな教育実践及び啓発活動			

### 活動の概要

学校や専門機関、家庭等と連携し本人を取り巻く環境を整えつつ、モチベーションやコーチングを使い本人の力を引き出すエンパワーメントアプローチを実践している。今まで多く行われてきた「分かりやすく勉強を教える支援」から「勉強が出来るようになる支援」=『福祉的教育』を提唱し愛知県半田市にて学生時代より貧困家庭の学習支援事業に取り組む。ボランティアとして学生時代にサークルを立ち上げ、現在は法人に移行し市の委託事業として継続的に実践している。様々な要因から参加の継続が難しい貧困家庭の学習支援において、毎月の参加率は9割を超え、昨年は入所当初偏差値40ほどの子が卒業後は偏差値60以上の高校に進学も果たしている。また、実践報告及び子どもの貧困の啓発活動を全国で行いつつ、全国組織への指導等も行っている。

現在は2020年の教育改革に向け、オランダのオールタナティブ教育の中で注目されているイエナプラン教育を実践するため研究に力を入れており、今年中にオランダの学校へ視察に行くことにもなっている。

子ども自身が一方的に決められた学びをするだけでなく、身近な学びの種から、考え、正しさを自ら判断することのできる教育を実践している。この実践では地域も巻き込みながら、子どもの育める土壌をつくり持続可能な血の通った地域づくり、「子育て支援」を目指している。

○「一般社団法人アンビシャスネットワーク」 <https://ambitious-network.jimdo.com/>

○アンビシャス・プロジェクト「ころむすび」 <https://www.youtube.com/watch?v=GAN7BtzWFwo>

### 今後の活動や協働への展望

今回のコンファレンスを通し、まずは他の実践を受け止め、理解し、良い面は現場に提案しながら、必要なものについては実践していこうと思っている。特に私たちは団体自体が若く、経験が乏しい面がある。そのため、現在関わる子どもたちのためになると判断されるものに関しては積極的に取り入れ実践していくことが今後の発展になると考えている。また具体的な発展については、違う視点から関わる子どもたちを見ることから始めようと考えている。私たちは貧困家庭の子どもたちを対象に関わってきた。今回、別の対象の子どもたちを対象に実践に取り組んでいる実践者と出会える。それぞれの子どもから見方から、今関わる子どもたちを今よりも多角的に捉えることから今後の発展に繋げていきたいと考えている。

また、ESD 日本ユースの一員として今後自身がどのようなことが出来るかについてもまだ具体的に見えていません。そのため、今回の繋がりを通し、まずは先輩方の実践や協働している事業を学ばせてもらうことから始め、自身の経験や他者の実践がより促進するように努めたいと考えている。

ふりがな 氏名	たにた あやか	都道府県	神奈川県	
	谷田 彩佳			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海大学教養学部国際学科</li> <li>・東海大学チャレンジセンタープロジェクト Beijo Me Liga</li> </ul>			
私のESD活動	私たちが望む教育環境と今			

### 活動の概要

2つのプロジェクトを紹介します。1つ目は人間学という必修科目です。人間学では多文化子どもプロジェクトや湘南里山プロジェクトなどが様々なジャンルのプロジェクトがあります。生徒は参加したいプロジェクトに入り、様々な視点からより良い地域作りへの活動をしています。私は多文化子どもプロジェクトに参加し、音楽や絵の活用方法を学び、日本に住む外国籍の子どもたちへのサポートを行なっています。また多文化子どもプロジェクトでは、毎年 CRI という団体が主催者となり、ユネスコスクール所属学校やユネスコスクールに所属しようと考えている学校や生徒などを集めて、各学校の活動報告やワークショップをしています。昨年は多様性についてワークショップをしました。

2つ目は、東海大学チャレンジセンタープロジェクト Beijo Me Liga です。外国籍の子どもと異文化交流・共生することを目的としています。私たちは秦野に住む在日ペルーの子どもに毎週土曜日学校で出された宿題などを一緒に解いたりします。また毎夏マルチカルチャーキャンプを開催しています。ブラジル学校やデンマークやサウジアラビア人など様々な国籍の人が参加し、大きなキャンパスの上で色塗れになるアクティビティや夏祭りなど様々な文化のアクティビティをします。

○「東海大学チャレンジセンタープロジェクト Beijo Me Liga」 <https://beijomeliga.jimdo.com/>

### 今後の活動や協働への展望

今後も在日外国籍の人たちへのサポートを続けていくと考えている。大学内で国際フェアというイベントが開催され、アラビアやタイ、スペインなど様々な国のブースが展示される。そこに私たち団体はブラジル代表として参加をします。また 11 月に CRI 主催のユネスコセミナーが開催されるので参加を予定しています。冬には、ブラジル学校や留学生を招き、冬のキャンプを開催予定です。12 月にはブラジル学校の卒業式などもあるため、日本のブラジル学校への訪問も行います。その他にも毎週行なっている学習支援活動や日本の文化を知ってもらう日本祭りなども行います。

私たち団体は「異文化理解」「異文化体験」に重点を置いています。在日外国人が日本で暮らすためには、日本の文化を知る必要があります。一方日本人も相手の文化を理解するチカラが必要となります。今後活動するにあたり、私たちのチカラだけではできないイベントを開催したいと考えています。共同企画やイベントなどに積極的に参加したいと考えています。

ふりがな 氏名	たにわき まさふみ <b>谷脇 理史</b>	都道府県 <b>岡山県</b>	
所属/肩書	・岡山大学大学院 社会文化科学研究科 博士前期課程 ・若者の参画する街岡山 (WASAO) /学生リーダー		
私のESD活動	若者と街をつなげる常設スポット「WASAO スポット」の運営		

### 活動の概要

私は、今 NPO 法人 YouthCreate の岡山事業「若者の参画する街岡山 (WASAO)」の学生リーダーを務めています。若者の投票率の低さが問題視されている中、私たちは「若者の政治参画の機会の少なさ」を根本的な社会課題としてとらえています。若い世代が気軽に街や政治のことに触れることのできる常設スポットを作り、政治参画のきっかけとなるような場づくりに取り組んでいます。同事業は、岡山市選挙管理委員会との協働事業として行われており、スポットは岡山市内の奉還町商店街内に週2回開けられるようにしています。スポット内では、大学生メンバーが2名以上常駐し、岡山市や地域の政治を若い世代にも気軽に接することのできるような壁ポスターを設置するなどの工夫で、若い世代で街のことを考えていける仕組みを作っています。また、街の魅力や課題、地方政治の仕組みについて触れ、参加型で学び合えるイベントも定期的に行っていく予定です。

少子高齢化が進み、各地域における人口減少が現実味を帯びてきている中、地域社会を担っていく若い世代が減少していくことが予測されます。少しでも社会課題に向き合っていく若者を増やしていき、将来世代である彼らの考えをより政治に参画させることが、持続的な地域を維持していくためには不可欠だと感じています。環境や格差、教育など地域に点在する諸課題を将来世代と共に解決していくために、将来世代にとって政治参画の入り口となっていけるようなスポットにしていけたらと思っています。

○「WASAO」 <https://wasao.jimdo.com/>

○「Wasaspot (若者の参画する街岡山) Facebook ページ」 <https://www.facebook.com/wakamonookayama/>

### 今後の活動や協働への展望

このユースカンファレンスを通して、実際にESDに取り組む様々な人との交流ができ、その経験は岡山での活動でも生かされると思います。常設スポットでの活動での中高生が来た際の会話の中でも、「こういう人と出会った」「こういった取り組みがあるよ」という形で伝えていくことによって今回のイベントでの得たものが生きると思います。またESDの概念を広げると、環境・教育を始め様々な社会課題に通ずるものがあります。そのすべてが私たちとのつながりを持っているものだと学びを深めていくほど感じます。今回のイベントでより深く議論したESDの概念を念頭に置き、いろんな角度からのスポット企画を定期的に行っていきたいと思っています。

ESD 日本ユースの一員として、今回で培われたネットワークを今後もつなげていき、SDGsにも沿ったスポット企画などで協働できればと思っています。SDGsの目標でもわかるようにESDへのアプローチは多種多様であり、しかもそれぞれがリンクし合っています。ユースカンファレンスで知り合った人々をさらにつなげていき、他分野の課題の取り組んでいる人たちをつなげていくことも面白い取り組みになるのではないかと考えています。

ふりがな 氏名	てるや あいか <b>照屋 愛香</b>	都道府県	<b>沖縄県</b>	
所属/肩書	<b>沖縄県立沖縄水産高等学校 / 教諭</b>			
私のESD活動	<b>異文化に理解を示し、世界と共存していることを自覚し、他人に関心をもてる人づくり</b>			

## 活動の概要

### 青年海外協力隊員として

1月まで、ヨルダンの UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)の学校にて、青年海外協力隊として、2年間体育科教育の技術移転に精を出した。体育の授業を行う必要性も感じていない現地教員を変えないことには、支援は持続しないと感じ、現地教員が体育の授業をやりたいと思えるシステムを、周囲を巻き込むことで作り上げた。自発的に授業運営をするようになったことにより、より多くの生徒が体育の授業を通していろいろなことを学ぶことができるようになったと考える。

また、沖縄県の小学校とテレビ電話をつないで異文化理解・交流を目的とした授業を行った。さらに、帰国した際にはその小学校へ行き、報告会を行い、約 100 人の児童と交流を持った。また地域でも交流会を行うことで、異文化をより身近に感じてもらうことで地域住民にも異文化理解をあおぎ、世界と共存しているということを伝えることができた。

### 現在教員として

普通高校ではなくたくさんのコースがある専門高校の中で、世界と共存することを自覚し他人に関心をもてる人がつくれるような種をたくさんまいている最中である。通常授業の中で、私しかできない例え話や比較の仕方をしている。

学級運営でも然り、生徒の中の世界の中心と当たり前があるように、異文化や彼らの常識から外れているようなことを当たり前のように話したり、行ったりしている。

○「The Jordan Times」 <http://www.jordantimes.com/news/local/through-sports-children-learn-teamwork-discipline%E2%80%999>

## 今後の活動や協働への展望

教育現場の中で、様々な交流活動ができればいいなと思っています。コンファレンスでできた仲間に講話をしてもらうも、コンファレンスで得たことをヒントに授業の中で新たな気づきを促したワークショップをするも、コンファレンスでできた仲間が育てようとしている新たな人材と、何か媒体を通しての交流活動も。コンファレンスで得た仲間と協力し、自分の ESD 活動を発展させていきたいと思っています。また逆に私自身が仲間の ESD 活動に協力させてもらうことで、さらに新しい気づきを得て、学校現場へ持ち帰ることもできると考えます。

しかし何よりは、日常の中で、通常授業の中で、少しずつ広げていきたいと思っています。異文化に理解を示し、世界と共存することを自覚し、他人に関心をもてる人が増え、自分のできることからやろうとする人が増えると、助け合いながら生きていける世の中になるのかなと、考えるからです。

ESD 日本ユースの一員として、仲間を作ること、そして仲間と話し、意見を聞き、協力して1つの仕事をやり遂げる・交流活動やワークショップをしていく。このことで互いに新たな気づきをよび、互いに高めあって刺激しあっていきたいと考えています。

ふりがな 氏名	ながかわ みさと	都道府県	東京都	
	<b>長川 美里</b>			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ One Young World Japan (南アフリカ大会アンバサダー)</li> <li>・ 株式会社グロービス (コンサルタント)</li> </ul>			
私のESD活動	東アジアの次世代が、「近くて遠い (地理的に近く、心理的に遠い)」と言わない社会を目指す			

## 活動の概要

東アジアの次世代の若者が、「近くて、遠い」と言わない社会を作りたい。そのために、東アジアにおける、次世代の人材育成に携わりたい。

戦後 70 年以上たち、戦争を知らない私たち世代だからこそ共感できる価値観と、未来への想いを、共に享受できる社会にしたいと思った。情報があふれる社会だからこそ、それぞれが感じる平和と、まっすぐな視点を養成する土壌を東アジアで共に作る必要がある、という問題意識からの活動だ。

具体的なアクションは、日本国内に留まらない、いくつかの具体的な外への発信活動を通して行っている。大きなものとしては、2016 年 1 月に東京大学で開催したシンポジウムと、同年 8 月に渡韓して行った啓発活動があげられる。前者は、私自身の周りで東アジアの和解に関する活動を、各々の魅力的な想いを通しおこなっている三名の方にお声がけし、東京大学公共政策大学院の協力をあおぎ、開催した公開シンポジウムである。当日は100名を越える学生・社会人を動員し、私自身も主催者兼スピーカーとして登壇した。様々な想いを持つ若者が一同にあつまり、想いを受け取り、発信する場としての、役割を果たせたと感じている。また、後者の活動は、韓国で行った。東アジアの和解はアジアの若者が手をとって行う必要がある。私は韓国国内ユネスコ委員会の一つのユース・フォーラムで、ファシリテーターとして参加をし、自らが行ってきた東アジアに関する活動の経験をもとに、参加者と運営をつなぐ役割を担った。

○「UmeeT 東大発オンラインメディア 活動紹介記事」 <http://todai-umeet.com/article/6501/>

○「次世代に生きる“わたし”たちにとっての東アジアと相互理解」 <https://atnd.org/events/73457>

## 今後の活動や協働への展望

私のもっている誰にも負けないもの、それは、「想い」だ。大学二年時に「近くて遠い」という言葉に出会い、その後大学院への進学(東京大学1年、北京大学1年で双方修了、ソウル大学院半年留学)を通し、自らの発信活動を、周りの人々に支えられながら行ってきた。仕事では人材育成に携わり、社外では国連協会主催のユース・フォーラム合宿での OG としての講演や、リーダーシップセミナーでの登壇など、私にはまだまだ背伸びとなってしまう機会を頂いた。仕事とその他の活動をする中で、私は今、「どのように、何を、継続していくべきか、」という壁と、「どんな新しい可能性があるだろうか」という問いにぶつかっている。だからこそ、この経験が必要だ。ESD で今回出会う人々は、様々な背景や才能を持っているだろう。私であればそれは東アジアへの情熱だ。ESD のコミュニティがそれぞれの情熱を通し、お互いヒントを得ながら、そして時に助け合いながら、活動をそれぞれのコミュニティで行っていくことで、社会のあらゆる課題をカバーできると感じている。すぐには形にできなくとも、想いを持ち考え続け、常に仲間と議論できるコミュニティであればと思う。お互いに対し、尊敬の気持ちを持ち続け、切磋琢磨できる場所にしたい。

私はこれからも東アジアの次世代へどう自分の経験を還元できるのか考え、行動する活動を続けたい。その上で、一緒に相談し、何かを生み出せる ESD の一員でありたい。

ふりがな 氏名	なぐら としお	都 道 府 県	東京都	
	<b>名倉 俊雄</b>			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶応義塾大学経済学部 Professional Career Program</li> <li>・NPO 法人日本子どもソーシャルワーク協会 ユースワーカー</li> </ul>			
私のESD活動	Think Globally, Act Locally を軸に持ち、 <b>学術研究と現場での活動の二つのアプローチでESDに励む</b>			

### 活動の概要

私はESD活動において2つの軸を持っている。1つ目の軸はThink Globallyで、日本で良く知られてない世界の持続可能な開発の活動に関して大学で研究を行い、論文執筆や学生会議への参加を通して認知度を上げる事である。具体的には、垂直型基金という疫病や気候変動といった持続可能な開発に必須な分野を支援する枠組みに関して研究を行っている。私は垂直型基金に関する日本語文献の少なさにショックを受け、自身で海外の先行研究を整理し、発展させることで日本での認知向上に貢献する事を目標としている。アメリカのパリ協定離脱が大きなニュースになっているが、同時にトランプの緑の気候基金への対応も注目を集めている。私は、自分の研究を通してこういった持続可能な開発に関する議論への日本の市民レベルでの理解促進と意見形成をサポートしたい。また、論文を書くだけでは多くの人に伝わらないので、8月には神戸で行われる国際ユース会議に参加し、世界中のユースと気候変動対策のあり方に関する議論を行う予定である。

2つ目の軸はAct Locallyで、ボランティアとして引きこもりの子供を支援する事である。私は、この活動を通して、思春期の子供がより自信を持って他人と関わる事ができるようにサポートしたいと思っている。また、経済的な理由等で望んだ教育が受けられない子供も助けたいと考えている。ESDを広めるためには個人同士のつながりが大事であるとの考えのもと、2つ目の活動を進めている。

### 今後の活動や協働への展望

私は大学卒業後米国の国際関係大学院に進学したいと考えている。私は過去に米国の高校に通った事や、米国の企業でインターンをした事があるが、その時は常に自身が日本代表であるとの考えを持ちながら振る舞う事を心がけていた。今回の留学でももちろん、ESD日本ユースの一員として海外に新しい風を吹かせたいと考えている。

私は、今回のカンファレンス参加を通じて、2つの事を実践したいと考えている。まずは、アメリカに世界中から集まるESD実践者と活発な議論を交わし、他地域、他国、そして世界レベルでのESD活動の発展を目指す事である。ESD日本ユースとして海外に行くならば、今回の会議で国内の最先端のESD事情を知る事は非常に重要である。また、他国のESD実践者とともにアメリカでESDを進めるプロジェクトを立ち上げたいと考えている。その過程で、各国のESDに対する考え方やノウハウを交換できれば良いと思っている。

もう1つは、海外のESD実践者から学んだ事や、得たネットワークを日本会議で出会った仲間に還元する事である。日本ユースの一員として海外とのパイプの役割を果たしたい。大学院進学までは会議で出た課題に他の参加者と共に取り組み、繋がりを強めたい。

大学院卒業後は、国際機関で働く事も考えている。ESDを促進する側である国際機関で世界の最先端を学び、最終的には米国大学院や国際機関で学んだ事を還元するべく、ローカルなレベルでESDに関わっていきたいと考えている。

ふりがな 氏名	にみや ゆうこ <b>二宮 由布子</b>	都 道 府 県	愛知県	
所属/肩書	特定非営利活動法人こども NPO / 名古屋市緑児童館職員 プレイワーカー			
私のESD活動	日本国内の子どもを含む市民に対し、ESD（主に人権）への関心を高めるため国際理解教育の啓蒙活動を行う			
<b>活動の概要</b>				
<p>私は子どもを含めた市民に対し、それぞれの主体的な活動を支援する活動を行っています。これまでの主な活動は以下の4つです。</p> <p><b>&lt;子育て中の保護者に向けた国際理解教育講座を企画&gt;</b> 社会課題への関心が低下傾向にある若年層に向け、グローバルイシューへの理解・多文化理解、問題解決の手法を主にし、これからの子どもたちが受けるべき教育を考えること、参加者自らが社会の当事者・担い手であると認識することを目的としました。講座終了後、講座参加者がサークルをつくり今後も自分たちが社会に対しどのようなことができるのかを話し合っていく場をつくり現在も継続して活動中です。</p> <p><b>&lt;中高生を対象としたワークショップのファシリテート&gt;</b> 中高生を対象にコミュニケーションや人権などをテーマに自らがファシリテーターとなり、継続的にワークショップを行っています。</p> <p><b>&lt;子ども達の遊びの権利を保障するプレイワーカー&gt;</b> 子どもが自由に遊べる空間の保障、大人に対し子どもが遊んで育つ必要性を伝えるプレイワーカーとして常時活動しています。</p> <p><b>&lt;地域の人と人をつなぐコミュニティワーカー&gt;</b> 実現したいことをもった人と人をつなぎ、新たな場を作っていく仕事を担っています。最近では、地域に住む外国人の方を中高生ワークショップの場に呼び、異文化理解のきっかけとなる場をつくりました。</p>				
<p>○「子どもに向けた人権教育講座・自らがファシリテート」 <a href="http://blog.canpan.info/kodomonpo-blog/archive/65">http://blog.canpan.info/kodomonpo-blog/archive/65</a></p> <p>○「ユースに向けた国際理解教育講座・自らがファシリテート」 <a href="http://blog.canpan.info/kodomonpo-blog/archive/16">http://blog.canpan.info/kodomonpo-blog/archive/16</a></p>				
<b>今後の活動や協働への展望</b>				
<p>私は現在、特定非営利活動法人こども NPO において名古屋市委託業務である、緑児童館でプレイワーカー（子どもたちの健やかな成長のために子どもに寄り添い・関わる専門職）として勤務しております。</p> <p>今後はこども NPO で主として勤めている“プレイワーカー”という立場だけでなく人々の場への参加を促進していく“ファシリテーター”、地域の人とつながり、人と人をつなげていく“コミュニティワーカー”として場づくりをしていきたいと考えています。</p> <p>現在私は地域に住む子どもに対し、参加型ワークショップを用いて、ESD の普及を図っています。今回のコンファレンスへの参加を通して、より子どもが主体となってこどもの意見を社会発信できる場・子どもが世界課題について主体になって学べる場を作っていくとともに、子どもだけでなく地域の大人も交えた交流の場、社会変えていく場に発展させていきたいです。</p> <p>また ESD 日本ユースの一員として全国のユースと協働することによって、地域への変容を図るだけでなく、社会全体へのエンパワメントを行いたいです。具体的には、ユース同士のネットワークを構築することによって、参加者各々の活動情報のシェア・社会発信、活動のコラボレーションをしたいと思っています。</p>				

ふりがな 氏名	はしづめ のぶゆき	都道府県	大阪府	
	橋爪 伸幸			
所属/肩書	関西創価高等学校 / 教諭 / SGH 委員			
私のESD活動	本校のSGHの取り組みで環境・開発・人権・平和の4分野で、生徒たちにグローバルリーダー教育をする			

### 活動の概要

毎週土曜日の4時間の授業を使い、GRIT(Global Research and Inquiry Time)(世界の調査と探求時間)と題して、世界的問題群を環境・開発・人権・平和の4分野に分けて学習できるように、3年間を通して取り組んでいる。私は高校一年生の担当をしており、当該学年では、全体のテーマをポスターセッションを行い学んだり、「もし世界が100人の村だったら」を題材に、世界にある不平等を実感できるように、生徒たちに役割を与えたカードを配り、世界的問題群をできるだけシミュレーションできるように努めた。また文化講演会という形で、全生徒対象に行い、講師として様々な世界の第一線で活躍している方々をお招きしている。本校の卒業生で、アフリカで氷を売るビジネスをしている方がおり、その方をお招きして、「開発」としての講義を行っていただきました。高大連携も活発に行い、大学教授でカンボジアで教員育成に尽力されている方に講義をしてもらい、「平和」「人権」の部分で生徒たちに世界の現状を教えてくださいました。東京・広島・東北へのフィールドワークも行い、世界を知りながら、「足場」である日本の中でどのような問題が起こっているかも調査・探求を行っている。大学に留学している外国籍の生徒40名ほどを本校に招き、グローバルキャンプと銘打ち、生徒200名弱と交流しています。その中のプログラムで、SDGsをテーマとして、生徒たちが留学生と議論をします。

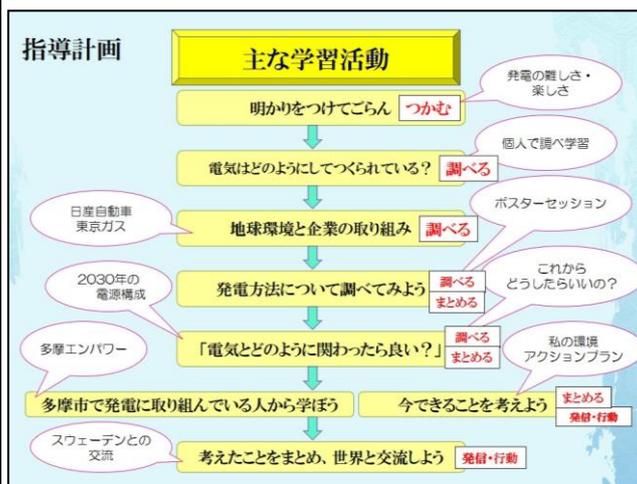
○「関西創価高等学校グローバルキャンプ2016」 <https://www.youtube.com/watch?v=2ZmPVemxCjA>

### 今後の活動や協働への展望

まずは、私自身が行っている授業の中で、SDGsを扱いながら、生徒に世界的問題群の学習と共に、自分自身に将来何ができるかを考えさせていきたい。また英語力強化が、国際社会に参加する一つの要件であるので、英検推進、英語スピーチコンテストへの参加推進、また現在、私は英語ディベート部の顧問をしているので、議題にSDGsを絡めて、クラブ活動を運営していきたい、例えば、環境保全は経済活動を犠牲にしても行うべき、など。全ての教育活動にSDGsの要素を入れることを考えて、企画立案実行をしていきたいと考えています。またNIE(Newspaper in Education)にも取り組んでおり、毎日のホームルームで生徒たちが新聞から環境・開発・人権・平和の4分野に関連する記事を見つけ、発表する活動です。この活動を営々と持続して続けていきたいと考えています。

ふりがな 氏名	はっちょう やすはる	都道府県	東京都
	八長 康晴		
所属/肩書	東京都公立小学校 / 教諭		
私のESD活動	小学校における環境教育とエネルギー分野の指導と評価について		

## 活動の概要



本校の第5・6学年では、総合的な学習の時間において、「環境とエネルギー」をテーマに探究活動を行っている。第6学年では、エネルギー分野を中心として、単元について以下のように位置付けて学習を展開した。

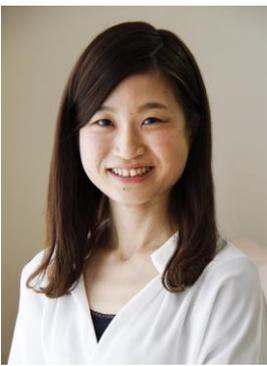
- ・発電と自分の生活とのつながりを意識し、問題意識をもって自分達の生活を見つめる中で、必要性を実感できる問題を設定する。
- ・問題を解決するため地域の力を借りる等、効果的な追究方法を工夫するとともに、見通しをもって計画的に問題解決に取り組む。
- ・調べたことや発電への挑戦をもとに、持続可能な社会づくりに参画する。

評価については、児童による学習の振り返りと学習前後のイメージマップの変容で行った。成果としては、ESDにより、自ら学んでいこうとする意欲的な姿勢を身に付けることができた。本単元では、発電のあり方について自分の考えをもち、未来の発電の在り方についても前向きに捉え、自分の問題として考え続けようとする意識をもつことができた。

イメージマップの関係枝を分析することで、知識と思考の高まりを確かめることができる。

## 今後の活動や協働への展望

参加させていただくにあたり、自身の取り組みを伝えたり、みなさんの活動を教えていただいたり、お互いを理解していくことで、今後のESDに関する活動を発展させていきたい。さらに、本コンファレンスを通して出会った方や得た学びを学校現場へつないでいきたい。特に、育成を目指す資質や能力を明確にしなが、授業改善の視点を意識することで、ESDが教育活動の中で、より根付くようにしていきたい。

ふりがな 氏名	ふくだ まい <b>福田 麻衣</b>	都道府県	大阪府	
所属/肩書	認定 NPO 法人箕面こどもの森学園 / 常勤スタッフ			
私のESD活動	平和的に解決に向かえるよう、対話をベースとし、民主的に物事を決定していく文化を育てている			

## 活動の概要

本学園では、これから持続可能な社会を作っていく子どもたちへ、対話をベースとした物事の解決や決定をしていく土壌を育てています。

具体的な活動の一つとして、集会(ミーティング)があります。子どもたち一人ひとりにとらえ方があり、さまざまな違いを持っているため、日々困ったことや言いたいことが出てきます。集会では、どんな意見も平等に大切にされています。時間はかかりますが、多数決はせず、様々な案を検討し誰もが反対しなかった案を選ぶという方法をとっています。子どもたちは、お互いの思いを知り、話し合いを重ねながら、どう折り合いをつけていくかを学びます。対立を避けるのではなく、こうした解決へ向かう方法を経験する過程で、子どもたちは自分も人も大切にされるべき存在であると感じ取っています。

そうした対話を重ねてきた子どもたちは、気候変動について学習した際、全校生徒で今後の行動についてアイデアを出し合い自分たちでアクションプランを作成しました。学習期間が終わってもなおそれぞれの実践が続いており、学校全体や家庭にも意識の変化をもたらしました。社会課題への解決に向け、主体的に学んできた子どもたちが周りへも多大な影響を及ぼしたことは、大きな成果です。このような対話の土壌を糧にし、「自分は社会の一員である」という意識を持った子どもたちが、これからの持続可能な社会を作っていくものと実感しています。

○「箕面こどもの森学園」 <http://kodomono-mori.com/>

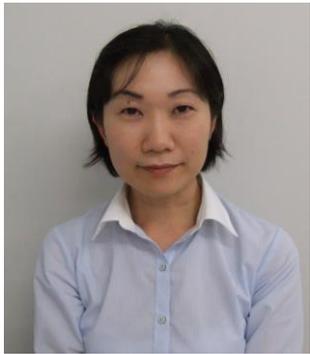
○「箕面こどもの森学園」小学部ブログ <http://kodomono-mori.com/blog/>

## 今後の活動や協働への展望

今後のESD活動をさらに深めるため、他団体や企業、教育機関などとの連携が重要となると考えていますので、参加者の皆さんの取り組みを参考にさせて頂き、私たちの連携の在り方をさらに発展させていきたいと考えています。

先述の気候変動の学習は、学園の「テーマ学習（平和・人権・市民・環境の4つのカテゴリーを、学期を通し長期的に学んでいく学習）」の一環で行いました。この学習では、『社会(世界)を知り、自分の生き方を考える』ことを軸に据えているため、より社会との繋がりを実感できるような学びの環境づくりに寄与したいと考えています。その為には、他団体で活動されている方に直接お会いすること、社会課題解決に向けた行動が最大値に近づくよう、ESD実践者同士のネットワークや連携を基に協働することなどが考えられます。カンファレンスへの参加を通して、今まで以上にその幅が広がり、子どもたちの学びの質、ひいては社会の持続可能性を高められると考えます。

ユースの一員としては、カンファレンスでの出会いや関係を継続的なものとし、目指す社会に向けて有機的に繋がりがながら、自分たちの活動分野で実践を積み重ねていきたいと思っています。その為に、ウェブ上でネットワークへの参画に加え、実際のワーキンググループにもぜひ参加し協働していきたいと思っています。また、本学園の取り組みを発信し社会全体としてのESD活動の発展に貢献したいと考えています。

ふりがな 氏名	ふじ まりこ	都道府県	徳島県	
	藤 まりこ			
所属/肩書	徳島県立富岡東高等学校 / 教諭			
私のESD活動	学校教育における ESD の取り組み—講義から得た専門知識をもとに、生徒の ESD 活動を充実させる			

### 活動の概要

本校では、生徒の ESD 活動の充実を図るべく以下のような取り組みを行っている。①各専門分野の外部講師を招き、その内容に関する感想を毎回生徒に提出させる(年間に3~4回程度、主に1学期に実施する)。②夏季休業以降、各生徒は学校での講演会の内容やニュースなどを参考にしながら、各自で ESD に関わる課題を発見し、解決に向けての調査を開始する。私が昨年度担当した高校1年生は、講演内容と繋がりのある「防災」「環境とエネルギー」「国際関係」「経済と貧困」「健康」から関心のあるものを選び、調査を行った。③調査内容をもとに、複数の生徒からなるグループを編成し、パワーポイントのプレゼン資料を作成して、1月にポスター発表会を実施した。本校は中学校も併設されているので、中学2年生と高校1年生による合同発表会となった。④2~3月は ESD に関連のあるテーマを題材としたクラス対抗のディベート大会を実施した。情報収集や資料作成はクラス全体で行い、どの生徒も活動に参加するように指導した。⑤今年度の高校2年生では、実験なども取り入れて、より実践的な ESD を進めていくことを計画しており、2学期から実施する。

本校は県南の中高併設校で、諸活動を中高合同で行うことが多い。ESD 活動でも生徒たちは、各発達段階に応じた思考・判断のもとで互いに良い刺激を得ながら活動している。

○徳島県立富岡東高等学校 <http://tomiokahigashi-hs.tokushima-ec.ed.jp>

### 今後の活動や協働への展望

これからの社会を担う子どもたちが ESD の活動を楽しみながら実践できる環境を整えたい。子どもたちがやりたいことを見つけたとき、効果的に支援できる環境の有無によって、子どもたちの ESD の活動の幅が大きく変わってくる。私は、このコンファレンスで得られる人とのつながりや各分野に関する知識を子どもたちの ESD 活動への支援という形で還元したい。教員として学校で生徒と関わるなかで常に感じるのは、「子どもたちの発想力の豊かさ」「エネルギーの高さ」である。大人では考えつかないようなユニークな発想が、ESD の各分野の専門的な知識や実際に取り組まれている諸活動と結びつくことで、これまでにない成果として表れるのではないかと思う。これまでも数々の調べ学習を子どもたちは経験しているが、自分の関心事に対して、実に積極的に取り組む姿が見られた。子どもたちの ESD に触れる機会が増え、関心のあるものに出会うことができれば、積極的に課題研究を進めていくことが期待できる。そうした ESD の可能性を子どもたちの手で広げるには、身近な大人が ESD を実践していることが必要である。従って、まずは自分自身がこのコンファレンスで視野を広げ、多くの知識を持ち帰りたい。また、子どもたちの課題研究を各種の研究機関や自治体に伝えることも ESD の発展に必要である。教員である自分の役割として、子どもたちと外部の関係機関をつなぐ存在になりたいと考えている。

ふりがな 氏名	ふじた まり	都 道 府 県	東京都	
	藤田 真理			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MA in Development Education and Global Learning, Institute of Education, University College London</li> <li>・ アイディール・リーダーズ株式会社</li> </ul>			
私のESD活動	人を真ん中に置いた持続可能な社会づくりのための学び研究（感性に注目）、NPO と企業の協働促進			

## 活動の概要

### 人を真ん中に置いた持続可能な社会づくりのための学び研究（感性に注目）

人がシステムや社会に合わせるのではなく、社会やシステムを人に合わせることで、持続可能な社会づくりにおいて重要な価値観であることを前提とし、人が自分にとって大事なものは何か、その大事なものを社会づくりにどのように生かすかを考えるための学びの在り方を探究しています。社会構造や「当たり前」を崩すことは開発教育から、人間の感性を開くことはホリスティック教育やコネクションプラクティスから、社会づくりに関しては組織論や地域づくりの実践からそれぞれ示唆をもらっています。

### NPO と企業の協働促進 (Co-ceAction: <http://www.co-creaction.jp/>)

社会を動かしていくためには、社会性の高いビジネスモデルが多く生まれることが不可欠であるという考えから、社会課題に取り組むパイオニアである NPO・NGO と、資金やビジネスのノウハウをもつ企業のマッチングを行っています。社会問題はとてつもなく大きく、NPO・NGO のみでは解決はできません。社会を変えてゆく、新しく良いものを社会に浸透させていく際に企業の「思いを形にするチカラ」(資金や知識、人も含めて)は極めて重要です。企業が社会問題の存在や様相を理解し、それらと自らの関係や、どのような社会価値を生み出せるのかに気づくこと、NPO が組織づくりや経営の在り方に刺激を受けることを、そして両者が共に新しい価値を創っていくことを目指しています。

○「NPO と企業の共創」 “Co-ceAction” <http://www.co-creaction.jp/>

## 今後の活動や協働への展望

初めて ESD 日本ユースの活動に携わるため、どのような出会いや学びがあるかは参加してみないとわかりませんが、問3で書いたことを通して、私たちが望む、人としての有り様とそれに基づく社会の有り様の輪郭をよりはっきりとさせ、研究や企業活動に組み込んでいきたいと考えています。

私の関心の中心は「学び」です。最近では企業で働く方々との学びの場づくりをやってみたいと考えているため、同じような想いをお持ちの方と今後何かを創っていったらうれしいです。また、私が何か貢献できることがあれば、積極的に協働を模索したいです。

また、修士論文のテーマを絞りきれていないため、実践者として最前線で活躍している参加者の皆さんから様々な刺激を受け、ヒントや研究の題材が見つけれれば嬉しいです。

ふりがな 氏名	ふなど あけみ <b>船戸 明美</b>	都道府県	千葉県	
所属/肩書	創価大学教育学部教育学科			
私のESD活動	カンボジアのトンレサップ湖における水上生活者の水環境意識の向上を目的とした空芯菜プロジェクト企画推進			
<b>活動の概要</b>				
<p>高校3年時に参加したカンボジアでの短期学校教育ボランティアにおいて、自然環境に配慮した経済成長とその達成のための教育の重要性を認識したことが契機となり、私は昨年9月より現在に至るまで、空芯菜プロジェクト企画に携わっています。空芯菜プロジェクトは、カンボジアにあるトンレサップ湖の水質浄化と、同湖の水上集落に住んでいる人々の環境意識の向上を目的としています。空芯菜は、カンボジアでよく食される栄養豊富な野菜で、水質浄化能力があることも確認されています。空芯菜プロジェクトでは水上生活者を対象に、この空芯菜を取り入れた環境教育を行います。環境教育では、日本の理科教材やESD環境教育モデルプログラムを参考にさせていただきながら、空芯菜の成長と水質の改善の循環的な仕組みを理解するための実践的授業や、水環境健全性指標を活用したアクティビティを実施します。水上集落の人々は、空芯菜で湖の水質浄化をしながら水環境について学習した後、それを収穫して、食することができます。水上生活者に身近な空芯菜を彼らの手で育ててもらいながら、環境教育で教材としても活用することで、先述した目的を達成します。このプロジェクト企画に関して、トンレサップ湖の環境保全に係るSATREPS事業の一環で、2017年8月24日から26日にかけてカンボジアで開催されたシンポジウムで発表および現地住民向けのワークショップを実施させていただきました。</p>				
<b>今後の活動や協働への展望</b>				
<p>コンファレンスへの参加をとおして、まずは私自身の取り組む空芯菜プロジェクトの環境教育内容を改善したいです。学生であることから、社会人経験に欠くため、私はESD活動においても知識や経験量はまだまだ浅く、乏しいと考えています。そのため、コンファレンスで実社会の中で精力的にESDを実践されている他の参加者の方々から実際の活動や、そこから得られた知見を伺い、環境教育内容の改善のための参考にさせていただきたいと考えています。</p> <p>また、空芯菜プロジェクトのみならず、大学内で他の教育学部生とESD活動を共有することで、将来教師になる予定のある学生らと具体的なESD活動内容と授業構想を練る機会をつくりたいと考えています。大学内でのそうした機会づくりと広報は、同学部の先生方や学内の教育学部会の学生に呼びかけて行うことができると考えています。</p> <p>ESD日本ユースの一員としては、コンファレンスで築いた参加者の方々との繋がりを生かすことで、新規的で発展的なESD活動を実施したいです。例えば、ESD日本ユース事務局Facebookグループに所属しているコンファレンス参加経験者の有志で、コンファレンス内で新たに企画したESDをテーマにしたワークショップを一般向けに実施するなどして、コンファレンス終了後も積極的に活動していきたいと考えています。</p>				

ふりがな 氏名	まちだ えりこ <b>町田 恵理子</b>	都道府県	東京都	
所属/肩書	大田区立大森第六中学校 / 教諭			
私のESD活動	ESD Food Project に参加し、「食」をテーマに国内外の学校と協働して食品ロス削減や地産地消の推進等			

### 活動の概要

ESD Food Project に学校として参加をした。インドやインドネシア、タイ及び国内の学校と協働して「食」をテーマに1年間通してスカイプやメール等で意見交換をしながら、互いの活動がより深まるよう働きかけあった。本校では有志の参加メンバーを募り、学年を越えて20名程度のプロジェクトチームを立ち上げ、各メンバーが「食」に対してどのような課題意識を抱いているかを探るために夏休みに個人およびグループ研究を実施した。それぞれの意見をもとに課題が共通しているメンバーでグループ編成を行って、具体的に活動できる内容を検討した。具体的には、地産地消の大切さを知って、広めるために大田区伝統野菜の「馬込三寸人参」の生産者の方をお招きして、講演をして頂いた。また、大田区主催 野菜と花の品評会・区民参加による収穫祭に参加をして大田区産の野菜を購入して、実際に調理をした。土地に適した栽培方法で作られた栄養価の高い野菜を食して健康促進を図るだけでなく、普段は捨ててしまいがちな部分も用いた料理にチャレンジした。

食品ロスを問題視するグループは、給食の廃棄量を掲示して何人分の食事に相当するかを校内に掲示し、給食を残さず食べるよう促した。栄養士や調理師の方々にもインタビューをして給食に対する想いも全校集会で伝えるなど、生徒の意識に変容が起きるよう働きかけた。

### 今後の活動や協働への展望

コンファレンスへの参加を通して、ユース同士でのつながりを構築して継続的に意見交換をできるような関係づくりに励むことで、現在の中学校での勤務を終えたあともユースの一人としてESDの実践をする場を発見できると考えている。特に区立中学校教員なので、今後の異動先の学校でESDの実践を推進していくためには、横のつながりが不可欠である。一人ではなく、日本全国そして海外にもESDの実践者がいるという実感は、自分自身がESD活動を推進していくにあたって大きな力になる。協働してできることを積極的に見出し、持続可能な社会の担い手づくりを今後も行っていきたい。現在の勤務校で行っている活動をより発展させていくために、学校外の団体の方々と協働する機会があれば是非実施したい。取り組んでいる活動を学校内だけでなく、広く地域社会に浸透させて意識や行動が持続可能な社会づくりへと変容させることができるようになるためには、諸団体の方々が取り入れている手法を知ることが有効であると思っている。特にSDGsの達成に向けて海外とも協働していくためには、先駆的に海外や諸団体と実際に協働して取り組んでいる実践例等を伺って、教育現場にどのように適応させていけばよいか考えて今後の活動に活かしていきたい。ユース同士でプロジェクトを立ち上げることができれば、互いの実践経験を活かして積極的且つ円滑に新たな企画も推進していけると期待している。

ふりがな 氏名	みぞ ななみ	都道府県	岡山県	
	<b>溝 奈々実</b>			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岡山大学</li> <li>・ NPO 法人だっぴ / 留学生支援ボランティア団体 WAWA</li> </ul>			
私のESD活動	「異文化交流活動」と「多様な生き方や価値観を共有できる場の提供」			

### 活動の概要

私は2つの団体①「NPO 法人だっぴ」と②「留学生支援ボランティア団体 WAWA」に所属しながら、これまで活動をしてきました。

- ① だっぴでは、若者50人と魅力的で地域づくりに貢献している大人50人がテーマに沿って話し、多様な生き方や価値観に触れることのできるイベントを開催しています。人と同じであることを良いとする価値観は若者自身の世界を狭めていると思います。その中で、若者のこれからの可能性を広げ、その実現力を高める為にも、若者が様々な人と出会い、多くの生き方や価値観に触れる機会を作っているのがだっぴです。「だっぴ」は岡山ESDプロジェクト参加団体であり、2016年にはESD岡山アワードを受賞しています。またイベントを作る若者自身の成長も求められており、実際に私自身もだっぴを通して多くのことを学びました。様々な生き方考え方の違いに面白みを見出して楽しめるようになる若者が少しでも増えることを望んでいます。
- ② また「留学生支援ボランティア団体 WAWA」に所属し、個人的に留学生のサポートを行いながらも、日本人と留学生が交流できる場をイベントとして運営しています。よりバックグラウンドの違う人間と触れ合うことによって、多様な価値観を楽しめるようになること、そして、世界は繋がっていることを実感することができると考えています。

これらの活動は実践的な教育に近く、持続可能な社会に貢献していると考えています。

○「NPO 法人だっぴ」 <http://dappi-okayama.com/>

○「留学生支援ボランティア WAWA」 <https://www.facebook.com/wawa.okadai/>

### 今後の活動や協働への展望

私はコンファレンスへの参加を通して学ぶことを活かし、今後イベント運営をする際にはより様々な視点を持って臨みたいと思います。特にディスカッションイベント開催の際には、価値観や考え方の違いに面白みを感じるだけではなく、1人1人がより良い未来にしていけるためにはどんなことができるのかを多くの人で語り合うような場を作りたいです。1人のパワーはほんのわずかなのかもしれませんが、周囲を巻き込んでいくことによって大きなものにしていきたいと考えています。また、これまで留学生とはよく文化の違いについて話をするがありました。しかし韓国で行われた国際ユースキャンプを通して、世界で起こっている問題などについて自分なりの考えをしっかりと持ったうえで議論をすることの面白さを体験することが出来ました。今後このような深い異文化交流を進めていくためにも、今回のユースカンファレンスではより多くのことを吸収したいです。

そしてESD日本ユースの一員としてESDの目標や活動についてより多くの人から自分の言葉で考え自分の言葉で語れるような機会を作り、同じユースの人たちと今後もずっと繋がりを続けることで相互に刺激を受けることでその地域に還元できるような形で協働していきたいです。全国にESDのための活動をする人が増えるように伝え、実践できる人間になれるよう精一杯頑張らせていただきます。

ふりがな 氏名	みょうらく かな	都道府県	岡山県	
	明楽 加奈			
所属/肩書	岡山市立御津公民館 / 職員			
私のESD活動	子どもから大人までが互いに学び合い、理解し合い、協力して活動すること			

## 活動の概要

岡山市には 37 の公民館があり、中学校区におよそ 1 つずつ設置されています。日頃から公民館では地域の人々が集い、学び、活躍する場になっていますが、地域でのESD活動の拠点にもなっています。

2014 年には岡山市で「ESDに関するユネスコの世界会議」が開催され、その関連会議として「ESD推進のための公民館—CLC国際会議」を開催しました。5 つの公民館が分科会の会場となり、多くの地域住民が日頃の活動を発表したり、海外や全国から来られる方を心をこめたおもてなしで迎えたりし、かかわった皆の心に残る貴重な経験をしました。

私が勤務している地域では少子高齢化が進み中学校区で高齢化率が 35%と高くなっています。また、企業に海外から働きに来ている技能実習生等が多いのですが、なかなか地域行事に参加、地域住民と交流する機会がないのが現状です。そういった地域課題をふまえ、ESD の視点を取り入れた事業を企画・実施しています。

①地域には古墳や山城などが多数あり、歴史のある地域なので、次世代を担う子どもたちへ歴史や文化を伝えていく活動を地域団体や学校と連携して実施する拠点となっている。

②地域に住む外国人同士や地域住民との交流の場として月に 1 回「多文化カフェ」を開催する。自国料理を作ったり、それぞれの国のことを話し合ったりし、年に 2 回は交流会として地域の盆踊りを教わり、夏祭りで浴衣を着て踊るなどの機会を設置している。

○「おかやまESDなび」 <http://www.okayama-tbox.jp/esd/pages/6878>

○岡山市公民館ESD実践集「れんめんめん」 [http://www.city.okayama.jp/esd/esd\\_00017.html](http://www.city.okayama.jp/esd/esd_00017.html)

## 今後の活動や協働への展望

公民館では日頃から、様々な地域住民の方、団体の方々と一緒に事業を企画・実施をしており、その内容な地域の課題であったり、社会の問題を学ぶものであったりしますが、その多くは持続可能な地域づくり・社会づくりにつながるものです。まさに地域住民の多くの方がESD実践者といえるのですが、そのことを分かりやすく、理解ができるように伝えることができるかという点、少し自信がありません。今回のコンファレンスに参加することで、自分の中でよりESDについての理解をより深め、自信をもって地域の方々が自分たちはESD実践者だと言えるようプログラムの工夫や働きかけをしていきたいと考えています。

また、普段は公民館や社会教育の関係者、行政等と関わりをもつことはあるのですが、学生やメディア、企業の方々と深い話し合いをする機会が持てていません。今回業種や分野を越えた出会いに一步踏み出す機会に恵まれたので、その縁を大切にして、全国の実践を地域へ取り込み、地域での実践を全国の仲間に発信できるよう努めていきたいと考えています。

ふりがな 氏名	むらおか まり <b>村岡 真梨</b>	都 道 府 県	<b>神奈川県</b>	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社メディア総合研究所 翻訳事業部 教育グループ</li> <li>NPO 法人コモンビート</li> </ul>			
私のESD活動	<b>国際理解教育/開発教育等をテーマにした教員向け研修の企画運営や出前授業等をおこなっています</b>			
<b>活動の概要</b>				
<p>所属の株式会社メディア総合研究所では、国際理解教育/開発教育、ESD、SDGs、異文化理解等をテーマに、教員向けの研修の企画・運営、全国小・中・高校を対象とした出前授業、講演、シンポジウムの企画・運営等を行っています。</p> <p>特に、JICA 地球ひろばおよび JICA 横浜での国際理解教育/開発教育の教員向け研修では、実際に教員の方々が開発途上国へ訪問し、その経験を学校現場で活かすことを目的とした教師海外研修を運営しています。具体的には、国内事前研修、事後研修に加え、過年度参加者を対象とするフォローアップ研修を実施しています。一つ一つの研修を単発で終えるのではなく、【国際理解教育・ESD・SDGsといったテーマを授業で扱う意義】、【どのように学校教育の中で持続可能な取組みにするのか】、【どのように他の教員を巻き込み、より多くの生徒が社会課題を自分事として捉えられるように仕掛けるのか】を大事にしながら研修運営を行っています。</p> <p>また、所属する NPO 法人コモンビートでは、『世界のダンス教室』というテーマで、講師として出前授業を実施しています。小学生を対象に、ダンスや表現活動を切り口として、世界の文化・環境問題・道徳等について体験型で学ぶことで、世界を身近に感じてもらうことを目的としています。2016 年秋～2017 年夏の期間で約 450 人の生徒・保護者向けに授業を実施しました。</p>				
<p>○「株式会社メディア総合研究所 グローバル教育事業について」 <a href="http://www.mediasoken.jp/mri-education/">http://www.mediasoken.jp/mri-education/</a></p> <p>○「NPO 法人コモンビート スクールプロジェクト」 <a href="https://commonbeat.org/project/school/">https://commonbeat.org/project/school/</a></p>				
<b>今後の活動や協働への展望</b>				
<p>私はこれまで国際理解教育/開発教育を柱に ESD に携わってきました。今回このカンファレンスに参加し、新たな視点を得たり、活動分野の異なる仲間と繋がることで、先ずは私が分野にとらわれない活動・取組みをしていきたいと考えています。</p> <p>国際理解教育/開発教育が扱う題材・分野は幅広いです。例えば、途上国への支援、貧困、学校に行けない子ども、他者理解と自己理解、世界や日本の社会課題を自分事にする想像力、環境問題への当事者意識など、いかようにも捉えられるため、異なる分野の方々と協働できるテーマが多くあります。また、ESD や SDGsをキーワードにすることで、さらに隣接分野の方々と協働できる、お互い巻き込め合えると思っています。</p> <p>具体的には、ESD 日本ユースのネットワークを活かし、これから携わる教員向けの研修や出前授業に、『別の分野から同じ課題を考えると』というテーマでの講師参加やワークの実施ができればと考えています。</p> <p>いずれにしても、研修の企画・運営や出前授業などの取り組みをととして、社会課題も身の回りの課題も自分事として捉えられるような子どもや、他者や異文化を理解することで、自己や自文化理解に気づく子どもの育成に貢献できればと考えています。</p>				

ふりがな 氏名	もりした たかし	都道府県	大阪府	
	<b>森下 貴史</b>			
所属/肩書	<b>桃山学院大学 教務部教育支援課 / 職員</b>			
私のESD活動	<b>大学職員として学生、地域の方々に継続的な教育や教育の種を与える</b>			

### 活動の概要

大学職員に奉職して11年目になるが、これまで「キャリアセンター」「教育支援課」という部署で勤務してきた。その中で、ただ学生を就職させる、ではなく将来継続的に社会に貢献できるような人材を育成してきた。加えて現在の業務では、教員を希望する学生のサポートや地域の教育現場との連携業務がある。その際も、『大学』という多くの学生が最後となる教育機関の使命として、学生、地域に最大限の効果を見出せるよう貢献してきた。この行動が今後の世界を担う若者の教育、次の世代となる子どもたちの教育にもつながっていると自負している。具体的には、地域の学校園等のボランティア活動に積極的に学生を派遣し、交流することによる地域貢献である。大学生という子どもたちにとっては少し上の世代との交流をはかることにより、大学生、子どもたち双方にとっての人格の発達の支援を行っている。また、時には学校の授業において、本学教職員、学生を派遣することにより、環境や貧困、社会について、国際的理解について等を学ぶ機会を設けてきた。

これらのような活動を数年間行ってきていることが私のESD活動である。さらに今年度はSDGsに関する新たな活動も計画し実行に向けて取り組んでいる。

### 今後の活動や協働への展望

#### ○今後発展させたいESD活動について

- ・本学に関わるステークホルダーへさらなるESD活動の注力、考え方の周知をはかる。
- ・大学に関連する方々だけではなく、もっと幅広い世代・地域の方々にも活動を発展させる。

大学職員として出来るESD活動はもっと潜在的にあると考えている。また部署が変わったり、新規業務あれば活動の幅もさらに広がっていく。

現在行っていることが自分の完成形と捉えるのではなく、向上心を持って学び続けることを心がけたい。そしてこの考え方が一番のESD発展につながると考える。

将来的には幅広い世代、地域の方々に伝えられるようになることも目標としている。

#### ○ESD日本ユースの一員としての協働について

- 一大学職員として、一社会人として、一日本人として、一世界の市民としてESD活動に幅広く協働したいと考える。
- このコンファレンスで得た人脈・ESD日本ユース・コンファレンスに参加した経験を自分の財産として、行動していきたい。

ふりがな 氏名	やすだ ゆうか	都 道 府 県	東京都	
	<b>安田 侑加</b>			
所属/肩書	聖心女子大学文学部英語英文学科			
私のESD活動	学内外様々な機会を積極的に利用した ESD の学びと、スタディツアーにおける環境問題のワークショップ			

### 活動の概要

大学の発展途上国における教育問題を扱う授業の一環で、スリランカの学校の3歳から14歳の子どもたちを対象に、環境問題のワークショップを実施した。現地では、道路脇などにゴミのポイ捨てが目立っていた。そこで、まず周辺環境に目を向けることを目的に、ゴミ拾い散歩を行った。次に、ゴミの分別と資源の使い方を可視化するため、ゴミ箱作りを行った。この際、現地の分別方法に合わせ、Organic, Paper, Plasticの3種類を作った。続いて、集めたゴミを先述の3種類に分けて置き、ゴミが発生した原因、ゴミを減らす方法などを話し合った上で、最後に作ったゴミ箱に分別したゴミを入れた。意識したことは、好きな食べ物を尋ねる質問でさえも、教師が答えを指定し、子どもたちも指示を待っている、というスリランカの受動的な教育文化の中で、子どもたちの自主性を尊重することだ。ゴミ箱作りの際、自由に絵を描けるよう、カードを使った分別ゲームで、先生チームと子どもチームを対抗させ、互いの独立を図った。その後、先述のカードをゴミ箱周辺に散らし、子どもたちが絵を描く際のヒントになるよう工夫した。その結果、カードを参考にゴミ箱の種類を明確にした上、色鮮やかな装飾や、ダイオキシンの悩む様子を表現した泣き顔の絵など、子どもたちの豊かな感性が反映されたゴミ箱が完成した。自らの手で作り上げたゴミ箱を、スタディツアー終了後も子どもたちが使用していたことは最大の成果であったと思う。

○「スリランカスタディツアー報告書」 <http://www.u-sacred-heart.ac.jp/graduate/report/files/160912jpn.pdf>

### 今後の活動や協働への展望

スタディツアーは発展途上国における教育プログラムであったが、私は将来日本のESDの拡充に携わりたいと考えている。そのため、今後ESDを探求していく上で、先述の通り、新たに、そして継続的に国内のESD活動を始めたい。また、将来に関して、具体的には学校とESDをつなげる橋渡しの役割として、ESDに基づく学校づくりに携わりたいと考えている。学生の間から現場に足を運び、生の活動を見、声を聞き、現場に関する情報を吸収していきたい。そこで、引き続きESDの実践校を見学することに加え、講師派遣など、学校外から学校内のESDに携わる活動側の視点からも、学校におけるESDの実践例に注目していきたい。さらに、様々な分野でESDに取り組まれている方々と継続的に関わり、自分にとってのESDを深めると共に、その活動や想いを伝えることで、周りのESDの認知を高めることにつなげたい。

ふりがな 氏名	やべ たつひろ <b>矢部 達大</b>	都道府県	奈良県	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ボーイスカウト大和郡山第1団ローバースカウト隊</li> <li>・京都産業大学現代社会学部現代社会学科</li> </ul>			
私のESD活動	<b>まちづくり活動に参加・参画し、観光のまち・奈良にふさわしいまちづくりプランを提案・実行しています</b>			

### 活動の概要

私は、奈良教育大学附属中学校に在学中、ESD 活動に取り組んできました。中学 1 年生の冬から地元にある遊郭跡の清掃活動に参加し、この建物を核としたまちづくり活動に現在も参加・参画しています。また、一条高校在学中には、まちづくり活動で感じていた“観光とまちづくりの融合”をテーマに、奈良市長に観光アクションプランを提案しました。このプランでは、“奈良市民の地元愛”と“観光客の奈良への想い”の 2 つが互いに奈良への想いを高め合い、その想いをまちづくりに活かしていくことを提案しました。その方法として、“民泊”を選びました。ただの民泊ではなく、山村留学からヒントを得、日常に触れるため学生に奈良市民の家庭に宿泊してもらい、第 2 の父と母を得て、将来大きくなって家族とともに奈良に里帰りし、移住・定住してもらおうというものです。奈良の良さは全員にはピンとこず、さらに当事者である奈良市民の多くは奈良の持つ魅力に気づいていません。このプランを実行することで若者に奈良の魅力に触れてもらい、それが分かる大人になって再び奈良に戻ってきてもらい、外からの視点も持つ当事者としてまちづくりに参加してもらおうことができると考えます。このプランは市当局や奈良市月ヶ瀬エリアの住民のみなさんと”続けていける観光プラン“になるよう若干の修正を加え、実行に移しました。現在は、奈良市の 1 つの観光の選択肢になるよう、取り組みを続けています。

### 今後の活動や協働への展望

私はこのコンファレンスで得たことを積極的にアウトプットし、まちづくり活動はもちろんのこと、社会学の研究や、指導者を務めているボーイスカウト活動でESD 活動を広げ、実行に移すことでさらに発展させていきたいと考えています。また、このコンファレンスで得られるであろうたくさんの視点から、自分の興味のある SDGs を再度見つめ直すことで、新たなアプローチの仕方を学び、方法を生み出して自分の ESD 活動に幅を持たせたいと考えています。特にボーイスカウト活動と SDGs では、多くの共通点があります。いまはまだ結ばれていない2つを結ぶことで、SDGs と関連する形の新しいボーイスカウト活動を展開し、ESD 活動を発展させます。

また、ESD 日本ユースの一員としては、それぞれが展開する ESD 活動の事例共有を行い、参考にしながらそれぞれの地でさらに ESD 活動を発展させるために協働したいと考えています。同じ 17 つの SDGs や ESD 活動を見ても、様々な視点があり、同じ視点でも様々な活動の展開方法があると思います。それらの成功事例や失敗事例をそれぞれ共有し、助言し合うことで ESD 活動の更なる発展ができるのではないのでしょうか。コンファレンスの場・一度きりではなく、ずっとつながるイメージを持ってコンファレンス以降も活発に意見交換しながら、ESD 日本ユースのみなさんと協働していきたいです。

ふりがな 氏名	やまもと かずき	都 道 府 県	新潟県	
	山本 一輝			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Ideapartners 代表/プランニングディレクター</li> <li>・特定非営利活動法人みらいず work/学びクリエイター</li> </ul>			
私のESD活動	<b>学校教育におけるキャリア教育の充実と若者の地域活動への参画を通じた社会性の醸成</b>			

## 活動の概要

地域に開かれた学び、特に学校によって差が大きいキャリア教育の取り組みの現状を受けて、中学生・高校生を対象とした職場体験やインターンシップのコーディネート、学校外の探求的な学びの場などをつくっています。人口流出が著しい新潟の現状に対しては、地元でイキイキと働く社会人の姿を伝え、地域への関心をもつ機会をつくるキャリア教育マガジン「みらいず BOOK」を発行し、3号の編集を担当。県内の中高校生へ無料配布をしました。17年2月には、新潟県異業種交流センター主催「地域活性化大賞」で大賞も受賞しました。

東日本大震災の被災地である石巻市では、まちを被災前以上に発展させるべく活動する(一社)ISHINOMAKI2.0の次世代のまちづくりの担い手を育む「いしのまき学校プロジェクト」に参画。講師兼アドバイザーとしてキャリア教育の企画や持続可能な運営のためのコンサルティングを実施し、宮城県のキャリア教育に関する企画提案にも関わり助成金の獲得も支援しました。

こうした各地での活動を通じて、地域への関心や主体性を持った若者の育成を図っていますが、一方で受け入れる企業や地域コミュニティにも新しい時代に即した価値観への理解や、彼らを活かすための取り組みが求められます。そこで地域の団体や企業と連携し、リノベーションプロジェクトの企画や、地元就職する高校生のためのキャリア支援の機会などを企画し、地域の方々や若者を巻き込みながら活動を行っています。

○「みらいず works」 <http://miraisworks.com/>

○「いしのまき学校」 <http://school.ishinomaki2.com/>

## 今後の活動や協働への展望

今回学び得た知見をもとに、現在取り組んでいる①学校教育の民間側からの支援(キャリア教育・地域連携)、②地域社会への働きかけと若者の協働機会の創出 2つの活動に活かしていきたいと考えます。具体的には、主体性やキャリア教育の充実を図るプロジェクト企画の更なる展開や、地域社会側への一定の合理性やエビデンスを基とした新たな提案につなげていきます。また、関わっている企画の仲間たちにも今回の学びを伝えるなど、積極的に貢献して参ります。

ESD日本ユースの一員としては、私自身が活動してきたなかで得られた学びやノウハウを、同様のテーマで活動する方、これから取り組もうとされる方へ向けて発信し、ともに学ぶ機会つくれたらと考えております。各地域・各分野での連携によって一層の充実が図れる際には積極的に行き来し、刺激しあい互いの活動の発展となれるようなことも取り組みたいです。

ふりがな 氏名	やまもと じゅんぺい <b>山本 純平</b>	都 道 府 県	<b>神奈川県</b>	
所属/肩書	<b>神奈川県立有馬高等学校 / 教諭</b>			
私のESD活動	<b>フードプロジェクトを通して、伝統食について学び、それを次の世代に伝え、自分たちの食文化を見直す</b>			
<b>活動の概要</b>				
<p>ACCUの協力の下、FOOD PROJECTに参加した。主にインドネシア、タイの学校と連携を取り、自国の伝統食についての発表を SNS(Skype facebook)を通して行った。また、相手国の伝統食のレシピをもらいそれを学校で生徒が実際に再現した。</p> <p>日本の伝統食は様々あるが、有馬高等学校は太巻き寿司を選んだ。NGOの講師を学校に招き、太巻き寿司の歴史やレシピを学び自分たちで作った。自分たちで伝統食を作ることにより、伝統食を見直し、なぜ伝統食が失われているのか考え直すきっかけになった。また、学校全体の生徒や地域の方にも知ってもらえるように、文化祭の際ポスターを使用し、発表、共有を行った。</p> <p>最終的には、それらの活動を FOOD PROJECT に参加しているユネスコスクールの間で共有し、ESD 活動をどのように行い、効果があるのか他校の教諭と共有した。</p> <p>株式会社 UNIQLO と協力し、服のカプロジェクトに参加した。高校生のみだと、子供服を集めることが困難なため、近隣の小学校と協力し、服集めを手伝ってもらった。近隣の小学校と協力することにより、地域での連携も強化することができた。</p> <p>これらの活動により生徒が異文化に興味を持ち、自国の文化を再度見直している傾向が合った。また、自分たちが行った行動が社会に大きな影響があると達成感を持つ生徒も増え、ボランティアや国際活動に興味を持つ生徒が増えた。</p>				
<b>今後の活動や協働への展望</b>				
<p>私自身が ESD 活動についての知識や経験をつけることは非常に重要である。しかしながら、公立学校の教員として働く上で、人事異動の関係から1つの学校で1つのプロジェクトを継続的に行うことが非常に困難である。そのため、早い段階で引き継ぎや次の世代に受け継ぐ作業が必要である。そのため、自分自身が主体となって行っている活動を一部の生徒や教員だけに還元するのではなく学校全体・教員全体の動きとして拡散していく必要がある。そのため、ESD 活動に取り組む人たちの関係を大事にし、お互いに活動を共有することが重要だと考える。</p>				

ふりがな 氏名	やまもと よしふみ <b>山本 佳史</b>	都 道 府 県	大阪府	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人ソーシャルギルド/代表理事</li> <li>・一般社団法人こどものホスピスプロジェクト/広報・ファンドレイジング・あそび創造広場担当</li> </ul>			
私のESD活動	<p>「孤独・孤立の解消」と「多様性ある社会づくり」に向け、若者とともマルチセクターの連携を構築する</p>			

## 活動の概要

大学でボランティア論などを教えながら、非営利組織のファンドレイズや、産学連携機関などに関わっています。高校生の頃から理科教育に関わり、開発教育、ESDへと発展してまいりました。ゲームを通じてSDGs(持続可能な開発目標)を学ぶワークショップや、若者関係のサミット等のファシリテーターなどもさせていただいております。

多様なスキルをもつ若者によるチーム「ソーシャルギルド」では、主に下記の取組みを重ねてきました。

- ・地域自治組織との協働：小学校敷地内での農を通じたコミュニティづくり、多世代参加でのウォールペインティング
- ・地域自治組織との協働：中学生主体の防災リーダー育成
- ・(特活)関西NGO協議会との協働：高校生による国際協力・多文化共生活動のリーダー育成
- ・(特活)NICE、(特活)みんなの未来かいたく団との協働：

ワークキャンプを通じて、若者が農にふれあいながら、持続可能な環境づくりに対して考え・行動する機会の提供(河内長野に空き家と預かっている放棄地を所有)

他方では、国内で唯一のコミュニティ型こどもホスピスのスタッフとして、施設隣接の広大な原っぱを「あそび創造広場」として、あらゆる子どもたちを対象にした遊びと学びの場づくりを推進しています。多様な主体との連携を常に重視しながら、さまざまなアプローチを通じて、「孤独・孤立の解消」と「多様性ある社会の構築」に向け活動を進めてまいります。

○「ソーシャルギルド Facebook」 <http://socialguild.net/>

○「こどものホスピスプロジェクト」 <http://www.childrenshospice.jp/>

## 今後の活動や協働への展望

私自身は、神戸での在住外国人支援から始まり、市民活動中間支援組織、東日本大震災におけるセクター間のプラットフォーム構築、耕作放棄地の再生と若者の成長支援、地域自治組織を中心としたまちづくり、開発教育のワークショップ実践など、幅広い分野でESDやSDGsが掲げる領域に関わってきました。

この強みを活かして、「コーディネーター」あるいは「ファシリテーター」として多様な活動をつなぎ、連携を促進する役割を担っていきたいと考えています。特に2015年度に国連で採択された「SDGs」は、企業活動との接点を構築していくうえで重要なキーワードと考えておりますので、非営利セクターと企業がともに企画する人材研修や、ユース世代への社会教育としてコンテンツの提供までおこなっていきたいと考えております。

また「あそび創造広場 TSURUMI こどもホスピス」での展開としては、地域に向けて多様な学びを提供するとともに、いのちに関わる病気をもつこどもとその家族が、多様な市民とまじわりながら、地域の中で融和していく土壌を醸成していくために、自然環境を活用したESDの普及啓発をすすめつつ、様々な団体にとっての協働実践の場にしたいと考えております。ちょうど今年度から、多様な団体との協働をすすめる「広場連携プログラム」もスタートしました。このようなトライアルの積み重ねを通じて、持続可能な社会づくりに向けた対話を進める役割を担いたいと思います。

ふりがな 氏名	わたなべ としき <b>渡辺 人生</b>	都 道 府 県	<b>神奈川県</b>	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都市大学環境学部環境マネジメント学科</li> <li>・昔の遊びを伝える会</li> </ul>			
私のESD活動	<p>「人に寄り添うこと」を軸に活動。昭和の昔遊びを通じて物の豊かさではなく、心の豊かさを育む</p>			
<h3>活動の概要</h3>				
<p>私は、日本で昔から親しまれている伝統的な遊びを通じて地域の子供たちやお年寄り、学生たちと、ともに笑い、ともに楽しみながら活動しております。</p> <p>私が所属している「昔の遊びを伝える会」というボランティア団体は昭和4年築の蔵まえギャラリーの建物や公園などで、地域の子供たちとけん玉や紙飛行機(折り紙)、ぶんぶんゴマなどの昔の遊びを伝承していくイベントを通して触れ合い、昔の遊びの楽しさやたくさん仲間と、遊びを共有する楽しさを提案しています。</p> <p>また、とにかく子どもと遊ぶことが大好きで、活動するときには子どもと一緒に遊びを通して手を動かし体を動かしています。具体的には、子供たちに3種類もの型の違った紙飛行機と一緒に折り、誰が一番より遠くに飛ばせるか、ずっと飛んでいられるかなど競争もさせていただきました。そして、それを見ているお父さんやお母さんも手を伸ばし、一緒に遊び始めるときには、世代の壁など感じることなく、同じ目線で楽しんでいました。</p> <p>親指の動きだけのゲーム機や携帯では得ることのできない、体全体を使う喜びを日々共有できることは、他にない幸せなことだと自負しております。</p> <p>そしてこの環境こそがイノベーティブ(先駆的)な取り組みであり、その結果、便利なものやことをただ追求するのではなく、今あるものや目の前にいる“人”を大切に、幸せになるのではなく、幸せに気付くことができいております。</p>				
<p>○「昔の遊びを伝える会 Facebook」 <a href="https://www.facebook.com/mukashinoasobi/">https://www.facebook.com/mukashinoasobi/</a></p>				
<h3>今後の活動や協働への展望</h3>				
<p>私は、ESD日本ユース・コンファレンスへの参加を通して、自分なりのより良い未来をつくるESD活動を確立させていきたいです。私は教育とは、共育であると考えています。自分とは異なる他者からただ知識や技術を教えていただく、教えるのではなく、ともに一緒になってより良いものに成長させ、持続可能な社会を実現させていくことこそ私の考えるより良い未来をつくるESD活動です。この活動を発展させていくために、“知識”と“経験”を積みみます。具体的には、今現在学んでいることに加え、ESD日本ユース・コンファレンスでの人の輪を活かし、一つの面からだけでなく様々な側面から物事を判断して情報を発信できるようにする。人と人とを繋ぎ、幅広いコミュニティを創り出す。そして、物の豊かさではなく、心の豊かさを高めたいけるように発展させていこうと考えています。</p> <p>また、ESD日本ユースの一員として、率先して社会を変えながら、社会を変えていくリーダーとして協働していきます。より良い未来のために様々な壁にぶつかったとしても、最後まであきらめず試行錯誤を繰り返し、同志(ESD日本ユースの方々含めたESD実践者)のアドバイスに素直に傾聴し、尽力していきます。さらに、これに加え、教員や研究者のみならず、NPO/NGO、行政、自治体、企業、メディア、学生など、様々な立場の方々を体験や感動、そして心豊かな人生へ導いていきます。</p>				

ふりがな 氏名	わたなべ みなみ	都道府県	愛知県	
	<b>渡部 南</b>			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渥美どろんこ村</li> <li>・田原市立野田小学校 / 教諭</li> </ul>			
私のESD活動	「そだてるたべるつながる」という自給自足な農的暮らしを目指しています			

### 活動の概要

わたしの実家は、愛知県渥美半島で農家をしています。野菜を育てるだけでなく、ブタやヤギ、ニワトリ、犬なども一緒に暮らしています。私たちが目指すのは、自給自足の農的な暮らしを目指しています。自分の食べるものは自分でつくる。それは、一見不自由なようですが、本来生きるために誰もがしてきた、そして実に豊かな暮らしとされてきたものです。今ではお金を出せば、いろいろな食べ物が季節を問わずに食べられる今、子どもたちは食べ物に「命」があることを知らずに育っています。しかし、命を育て、命を食べて、命と自分がつながっていることを実感することは、まさに生きることそのものです。この私たちの暮らしを子どもたちの学びの場に行き渡らせるのではないかと考え、子どもたちや都会で暮らす人たちを受け入れて、農家本来の豊かな暮らしを体験してもらいたいと思い、主に春休み、GW、夏休み、冬休みにファームステイを行っています。今では、年間20コース、約300の方が参加するまでになりました。

○「渥美どろんこ村」 <http://yagibuta.jp/index.html>

### 今後の活動や協働への展望

教育は、学校だけが担うものではなく、多くの分野から働きかけて子どもたちを育てていくものだと思います。しかし、農家や NPO 団体や企業がどれだけ子どもたちに働きかけたいという思いをもっていても、やはり限界があります。しかし、学校が軸となり、子どもたちとそれらをつなげる役目を担えば、教育の可能性はとてつと広がると思います。コンファレンスに参加を通して、私は学校を軸として、人や地域や自然を子どもたちとつなげるために自分ができることを具体的に考えていきたいです。そして、他者(人・自然・動物・地域など)とのつながりを感じられる子どもたちを育てたいです。私は、他者とのつながりを実感することが、他者への思いやりにつながると思います。そして、その感覚が ESD の根っことなる部分だと考えています。

## プログラムデザインチーム

### 【過去 ESD 日本ユース・カンファレンス参加者】

	<p><b>青山 真弓</b>（あおやま まゆみ） / 第2回参加 小学生～大人向けの環境学習プログラム運営や環境ボランティア・環境教育・環境保全活動の推進にかかるコーディネート業務を行っています。</p> <p>ESDユースカンファレンスで繋がったネットワークを活かして、既にESDに興味関心ある若者やこれからESDを知りたい若者にとってのためになる情報、機会を提供していきたいと思っています。</p>
	<p><b>飯田 貴也</b>（いいた たかや） / 第1回参加 ESD や科学技術コミュニケーションをテーマに、“研究と実践の往復運動を繰り返していきたい”との思いから、大学院生とNPOスタッフという二足のわらじで活動中。「NPO 法人新宿環境活動ネット」「こども国連環境会議推進協会」の2団体に所属し、主に小・中・高校生を対象として、企業・研究機関・大使館・省庁・自治体などの様々なステークホルダーと連携・協働しながら、年間100件ほどのプログラムを提供している。</p>
	<p><b>大野 さゆり</b>（おおの さゆり） / 第2回参加 モザイクアートのように、1つ1つのいのちがそれぞれの色や形で輝き、全体としてもキラキラと美しい世界、をつくるために生きています。</p> <p>メーカーの営業と人事を経て、現在はプレーパークで働く傍ら、国際教育に関する教材開発および研修、様々なバックグラウンドの子ども向けキャンプなどを行っています。ここで出会えたみなさんと、一緒に未来をつくっていけるのが楽しみです♪</p> <p>●多文化共生、市民性育成、持続可能、対話</p>
	<p><b>篠田 真穂</b>（しのだ まほ） / 第2回参加 みんなが生きやすい社会のために何が必要か、多様な背景をもつ人たちと共に考えていく過程が ESD だなあと感じながら日々活動しています。（公財）ユネスコ・アジア文化センターでは ESD の推進を主な仕事としていますが、仕事と私自身の生活には境目がありません。ESD ユースの仲間と対話を重ねて自分たちの未来を考えることは、今では私の中の生活の一部になっています。このように私は国内外、他者自分に境をつくらず「未来の教育とは？」をテーマに活動しています。</p>
	<p><b>チア ムカイ デニス</b> / 第2回参加 ESD 活動：日本の地方創生やインバウンド観光促進において留学生が活躍できるプラットフォーム作りをしている。留学生が持つスキル、国際的な視点を活かし、地方の観光資源などを再編成し、地方の魅力を海外に発信するとともに、課題先進国の日本の持続可能な社会作りの実績を世界と共有する場を構築する。また、留学生が活躍できる多様性溢れる日本社会作りにも貢献している。</p>
	<p><b>中尾 有里</b>（なかお ゆり） / 第1、2回参加 人が自分として生きる／共に生きることを探究しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育と探求社 コーディネーター」：学校での学びが学習者中心にシフトするために、通年プログラムを提供し、中高の先生をお手伝いしています。</li> <li>・「Open Lab. 共同創設者・ファシリテーター」：学びに携わる大人に向けたリトリートと探究の場を開いています。</li> <li>・「ESD Youth Japan」：団体として整備するためのビジョン MTG、政策提言、FB グループの管理を行っています。Website のチームにもいます。</li> </ul>

【ファシリテーター】

	<p><b>嘉村 賢州</b>（かむら けんしゅう）</p> <p>「場づくり」の専門集団、NPO 法人場とつながりラボ home's vi の発起人兼代表理事。コミュニティ運営や組織開発・プロジェクトマネジメントなど、人と人が関わる空間やプログラムのデザインを「場づくり」と称し研究開発・実践を行っている。フィールドは多岐に渡り、まちづくり・教育・企業の人材採用・組織開発など。学生時代に行っていた、紹介制町家コミュニティ「西海岸」の試みは5年で1000人を超えるコミュニティとなり若者世代で有名。NPO 設立後は京都市より「京都市未来まちづくり 100 人委員会」の運営の受託ワールドカフェやオープンスペーステクノロジーなどの手法を活用し運営を行っている。</p>
---	--

【事務局（五井平和財団スタッフ）】

	<p><b>有馬 徹</b>（ありま とおる）</p> <p>五井平和財団の IT 関連担当。IT 技術を使用して、世の中が、様々な分野の方々が協力し合い平和で持続可能な未来になることを目標に、若者や教育者などのネットワーク形成や教育プログラムなどに取り組んでいる。</p>
	<p><b>鈴木 啓介</b>（すずき けいすけ）</p> <p>コンファレンスでは運営担当として、参加者や関係各所との連絡・調整をしています。学校などと連携した様々なプログラムを行い、ESDの推進に取り組んでいます。</p>
	<p><b>中並 千景</b>（なかなみ ちかげ）</p> <p>一人ひとりが自分の特性に気づきそれを社会に生かしながら、新しい未来をつくっていくことを促す社会人向けのプログラムや、コンファレンスなど広くESDの普及に取り組んでいます。</p>
	<p><b>中山 樹</b>（なかやま たつる）</p> <p>五井平和財団事業ディレクター。青少年教育事業担当として、ESD、平和教育、国際理解教育などの様々なプログラムを企画立案し、国内外で推進している。</p>
	<p><b>宮崎 雅美</b>（みやざき まさみ）</p> <p>五井平和財団常務理事。「ESD に関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」を推進するパートナー・ネットワークのメンバーとして、ユネスコと協力しながら、若者の動員とリーダーシップの育成に携わっている。</p>

※本事業は、平成 29 年度日本/ユネスコパートナーシップ事業、  
ESD(持続可能な開発のための教育)に関するグローバル・アクション・プログラムを推進する事業です。



〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-4-5 平和第 1ビル  
公益財団法人 五井平和財団 「ESD 日本ユース・コンファレンス」 事務局  
TEL: 03-3265-2071